

厚生労働科学研究費補助金
健康安全・危機管理対策総合研究事業

公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と
女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究

平成 29 年度 総括・分担研究報告書
(簡易版)

研究代表者 吉田 穂波

平成 30(2018)年 3 月

目 次

I.	総括研究報告書	
	公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と 女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究	・・・ 3
	吉田 穂波	
II.	添付資料	
1.	(資料)臨床医師に関する調査結果報告書	・・・ 21
2.	(資料)公衆衛生医師の人材確保・育成に関するアンケート	・・・ 43

I . 総括研究報告書

公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と 女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究

研究代表者 吉田 穂波 神奈川県立保健福祉大学 准教授
研究分担者 渡邊 亮 神奈川県立保健福祉大学 研究員
研究分担者 佐藤 大介 国立保健医療科学院 主任研究官
研究分担者 吉村 健佑 国立保健医療科学院 主任研究官

研究要旨：【目的】本研究は、自治体の公衆衛生医師の確保を促進するために、1)女性医師、若手医師、ベテラン医師が公衆衛生医師の具体的な活躍のイメージを関係組織と共有すること、2)社会医学系専門医認定プログラムや自治体の公衆衛生医師養成プログラムを基に、行政機関の公衆衛生医師におけるコンピテンシーとその育成プログラムポリシーを策定すること、3)公衆衛生医師に求められる資質や育成に関するガイドラインを整備することを目的としている。女性医師や若手医師、50～60 台の比較的高齢の医師が保健所をはじめとする公衆衛生分野で活躍するための認識や課題、障壁などを抽出するため、新たな調査を行うとともに、離職率が高いとされる公衆衛生医師の確保・育成についての知見を取りまとめ、これらをもとに具体的な手法についての検討を行った。これらの成果については関連事業である地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業、以下「全国保健所長会事業」）と共有しながら、各都道府県が公衆衛生医師の確保・育成のために活用出来る基礎資料を作成していく。現場の意見を反映させながら客観的な計量分析を行うことで、公衆衛生医師の増加に資する政策がリアリティを持つものとなり、人材確保ならびに人材育成プログラムの整備が進むと考えられる。

【方法】本研究では公衆衛生医師の現状分析における新たな調査手法として臨床医に対するアンケート調査を実施した。調査項目は、行政機関勤務の公衆衛生医師に対する認知度、イメージおよびコンピテンシー習熟度やキャリア意識とした。調査対象は民間インターネット調査会社が保有するパネルのうちランダムに抽出した日本全国における 25 歳～70 歳の医師 412 名を対象に、「個人属性に関する質問」、「一般臨床医師を対象にした公衆衛生医師のイメージに関する質問」、「コンピテンシーに関する質問」の三つの側面から調査し、基礎的集計を行った。

新たな現状分析調査として、上記に加え、全国保健所長会事業や関連組織と

連携し、現場で働く公衆衛生医師からのヒアリングを行うことで、より具体的に実情に即した事例の収集、モデルケースの抽出、検討を行った。ヒアリング調査では全国保健所長会及び各自治体に対して協力を仰ぎ、協力が得られた①全国の保健所長または保健所勤務医師②都道府県の保健福祉部門に勤務する医師(行政医師)を対象とした半構造化質問票を用いたリサーチ・インタビューを実施した。調査対象は調査に同意した5名であり、調査の合計時間はおよそ8時間(1人あたり平均96分(最小値約40分～最大値120分))であった。加えて、本研究では公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集として広告専門医の取得情報が調査項目に加えられた2010年から2014年までの「医師・歯科医師・薬剤師調査(以下、三師調査)」の個票を解析する。初年度にあたる今年度は、まず統計法第32条に基づく分析データの取得がおこなわれ、この作業に平成30年4月下旬まで要した。さらに、研究手法の重複や無駄を省き知見を統合するため既存研究の時系列レビューを行い、これまでの主な厚生労働省の公衆衛生医師確保対策の網羅的に探索し、論点整理と課題抽出を行った。これらをもとに都道府県の公衆衛生医師確保対策や職場環境の整備、人材育成制度等の基礎資料としてまとめた。

【結果】公衆衛生医師の現状分析に関する新たなデータ収集として臨床医に対するアンケート調査を行った結果、医師資格取得年数は平均25.0年であり、年間収入は概算平均1,543万円で、男性・50代・専門医資格を有する層の年収が相対的に高い傾向があった。公衆衛生医師領域の認知率はベテラン医師で比較的高い一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向がみられた。コンピテンシーについては60代以上で全般的に高い自己評価となり、30代以下では『分析評価能力』の「法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる」が低い結果となった。

行政医師に対するインタビュー調査については、医師確保の課題として公衆衛生行政医師業務の魅力効果を効果的に発信できていないことが示唆された。一方、公衆衛生行政業務のやりがいやワークライフバランスを踏まえると、潜在的な「なり手」は存在すること、組織や地域を越えた人材交流の枠組みを構築することによって医師確保を促進しうることが示唆された。育成上の課題としては「育成プログラム」や「研修機会」の欠如が挙げられ、キャリアラダーなどを用いてコンピテンシーを踏まえたキャリアパスを明示することに加え、オンライン研修の充実や自治体内研修受講の義務化が重要であると考えられた。全国的には公衆衛生医師の絶対数不足とさらなる減少傾向、地域偏在が深刻な状況である。そこで、都道府県の実態を統合することで公衆衛生医師の人材確保に係る課題を整理することができた。

厚生労働省の公衆衛生医師確保政策における論点整理と課題抽出において

は、これまで開発されたガイドラインやチェックリストなどのツールや好事例集の類似点、相違点が明らかになった。人口減少や専門医制度、地域医療構想等、時代の変容に合わせた利活用方法について概観し考察を加えた。

【結論】本研究は、自治体の公衆衛生医師の確保を促進するために、女性医師、若手医師、ベテラン医師、都道府県の修学資金制度を利用した医師など、細分化したターゲット別のアプローチを関係組織と共有し、社会医学系専門医認定プログラムや自治体の公衆衛生医師養成プログラムと連動した研修手法を検討するという包括的なアプローチを用いている。本年度は、これまでの全国保健所長会事業の取り組みを踏まえながら、新たな定量的調査及び分析を行い、人材育成プログラムの開発と行政機関における現場の実態把握とを一体的に検討し、具体的な公衆衛生医師確保のためのガイドラインおよび指針に繋げていく素地が出来た。今後は、これらのエビデンスに基づいて抽出された公衆衛生医師確保のポイントを自治体担当者向けに簡便かつ魅力的に見せ、自治体規模や地域特性に応じて公衆衛生医師確保の手段として役立てられるようなツールを構築していく必要があると考えられる。本研究を通じて全国保健所長会事業と本研究班や教育・研究期間、臨床で働く医師のネットワークが交流する機会を持ち、連携し、公衆衛生領域の意義を広め、活性化を促すことも副産物の一つである。今後、より具体的で精緻な人材確保および育成手法の確立が求められる。

研究代表者

吉田 穂波
神奈川県立保健福祉大学 准教授

研究分担者

渡邊 亮
神奈川県立保健福祉大学 研究員
佐藤 大介
国立保健医療科学院 主任研究官
吉村 健佑
国立保健医療科学院 主任研究官

研究協力者

宇田 英典
全国保健所長会 会長

宮園 将哉
大阪府富田林保健所 所長
清古 愛弓
台東保健所 所長

A. 研究目的

近年の目覚ましい医療技術の進歩や急速に進む少子高齢化、経済・地域格差の増大、医療制度や医療経済の改訂に伴う社会環境の変化により公衆衛生領域が担う役割は重要性を増している。その中で、公衆衛生医師は医学に係る科学的エビデンスを社会に適用し、行政システム、地域住民や社会構造など俯瞰的な視野から幅広い事業に取り組み、国民の健康増進に大きな役割を

果たしている。

これからますます重要性を増していく公衆衛生医師の人材育成にあたっては、公衆衛生医師の具体的なイメージを共有するための事例の収集や、コンピテンシーに基づく人材育成プログラムが必要であることは論を待たない。一方、公衆衛生医師の不足が指摘される現状において、とりわけワークライフバランスを必要とする女性医師や地域保健、社会医学領域に関心を持つ若手医師、体力的な制約のあるベテラン医師も活躍できる環境整備が求められている。それに対して本研究では、公衆衛生医師確保に対する今後の適切な施策を考える際に不可欠な医師のキャリア志向とその実態を把握するための調査票の作成、調査手法の開発を行う。

医師のキャリア形成は、多面的様相をもつ。例えば、女性医師、若手医師、ベテラン医師、公衆衛生修士取得者、自治体の地域枠医師等、ターゲット層のそれぞれの特性によって求められる勤務環境や育成プログラムポリシーが異なるため、地域性や特性に応じた公衆衛生医師の確保および人材育成の対応策を取りまとめることが喫緊の課題となる。

本研究の最終的な目標は、公衆衛生医師の姿や職場環境やキャリア意識に基づいた課題を整理することで、全国の都道府県が各地域の実情に即して公衆衛生医師を確保するための基礎資料を提供することである。本研究の成果が女性医師、若手医師、ベテラン医師、公衆衛生修士取得者、自治体の地域枠医師等、それぞれの層で浸透していくことで、公衆衛生医師の具体的な活躍のイメージと知名度が高まるとともに多

くの潜在医師のキャリア形成と社会貢献意識をはぐくみ、数年後には、どの都道府県においても継続的に公衆衛生医師の人材確保および育成を可能とするような仕組みの基盤となることを目指している。

本年度から2年間で目指す成果は下記のとおりである。

1. 公衆衛生医師の現状に関する分析

- 1) 新たなデータ収集と分析①臨床医に対するアンケート調査
- 2) 新たなデータ収集と分析②行政医師に対するアンケート調査
- 3) 新たなデータ収集と分析③行政医師に対するインタビュー調査
- 4) 新たなデータ収集と分析④三師調査の個票分析

2. 公衆衛生医師のコンピテンシー整理

- 1) 公衆衛生医師確保政策における論点整理と課題抽出
- 2) 育成プログラムの試行およびキャリアパスを可視化するキャリアラダーの作成
- 3) アクションプラン（実践指針）の策定、都道府県への還元とフィードバック、ならびにナレッジシェア（知見の蓄積と還元）

以下、本年度に行われた調査の研究目的を述べる。

1 公衆衛生医師の現状に関する分析

1) 新たなデータ収集と分析①臨床医に対するアンケート調査

本研究は、全国保健所長会のこれまでの研究成果を参考にしつつ、公衆衛生医師の

人材確保およびコンピテンシーに基づく人材育成に向け、行政機関に従事する公衆衛生医師に関する現状を明らかにするために、一般医師を対象としたコンピテンシーの習熟度や女性医師、ベテラン医師それぞれにおける一般医師のキャリア志向に関するアンケート調査を実施した。

公衆衛生医師の不足が指摘される現状においては女性医師や経験の乏しい若手医師、体力的な制約のあるベテラン医師も活躍できる環境整備が同時に求められる。本研究は一般医師が持つ公衆衛生医師のイメージ、職場環境、キャリア意識に基づいた課題をアンケート調査によって明らかにすることで、人材確保および人材育成に関する具体的かつ実情に即した検討を行う基礎資料とする。これにより、より具体的な公衆衛生キャリアの提案、各地域の実情に即したロールモデルの見せ方に関する検討を行うことを目的とした。

3) 新たなデータ収集と分析③行政医師に対するインタビュー調査

自治体の公衆衛生行政医師の確保と育成を促進するため、公衆衛生行政医師の具体的な業務やキャリア、その業務に求められる特徴的なコンピテンシーの特定に加えて、公衆衛生行政医師の育成に求められる要素や課題について明らかにすると共に、具体的な公衆衛生医師人材の確保及び育成を推進するための基礎資料を得ることを目的とした。インタビューでは公衆衛生医師の確保・育成を促進・阻害する具体的かつ実情的な要因を抽出し、それらを踏まえた実効性のあるガイドラインを策定することを目的とする。

4) 新たなデータ収集と分析④三師調査の個票分析

全国的には公衆衛生医師の絶対数不足とさらなる減少傾向、地域偏在が深刻な状況である。そこで、都道府県の実態を統合することで公衆衛生医師の人材確保に係る課題を整理することができる。

本研究では「医師・歯科医師・薬剤師調査」から公衆衛生医師数の「地域別」「性別」「年齢別」の時系列変化を解析し、この分析から導き出された結果によって、他組織から行政医師に転向する医師や、行政機関勤務医師からほかの勤務形態に転向する医師の属性を把握し、離職率が高いとされる公衆衛生医師の実態を分析する。

2. 公衆衛生医師のコンピテンシー整理

1) 厚生労働省の公衆衛生医師確保政策における論点整理と課題抽出

本研究では、政策評価の観点から現時点での政策的方策を可能な範囲で参照し、効果的な確保対策や方向性を検討した。これは現行の対策の課題抽出や論点整理に資するのみならず、自治体ごとの医師確保計画を策定する際に紐解く資料とすることが目的である。

B. 研究方法

1. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析①臨床医に対するアンケート調査

調査対象は民間インターネット調査会社（株式会社マクロミル）が保有するパネルのうち、職業が医師であるものからランダムに抽出した日本全国における医師資格を

有する 25 歳～70 歳の男女 412 名を対象とした。調査項目は「個人属性に関する質問」、「一般臨床医師を対象にした公衆衛生医師のイメージに関する質問」、「コンピテンシーに関する質問」の構成とし、性・年齢別等によるクロス集計から現状分析を行った。

また、行政機関の公衆衛生医師におけるコンピテンシーについても調査を行った。コンピテンシーとは、公衆衛生医師として求められる主要な能力であり、技術や知識のみならず専門家として様々な課題に対応するために具備すべき力のことである。本研究では、社会医学系専門医協議会が定める「社会医学系専門医が備えるべき 8 つのコンピテンシー」として、従来の「保健衛生」を超えた社会医学系専門医のサブスペシヤリティである「保健・医療・福祉制度の網羅的専門知識」、「健康危機管理等に対応できる技術・経験」、「目指す方向を示し実現する力を持つリーダーシップ」、「他職種を巻き込んだ人材育成」について主観的評価を行った。

2. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析③行政医師に対するインタビュー調査

全国保健所長会及び各自治体に対して協力を仰ぎ、最終的に調査への同意と協力が得られた下記の 5 名を対象として半構造化質問票を用いたリサーチ・インタビューを実施した。対象は、

- ① 全国の保健所長または保健所医師
- ② 都道府県の保健福祉部門に勤務する医師(行政医師)

であり、各対象者の勤務地または会議室を

用いて実施した。調査の合計時間はおよそ 8 時間であり、1 人あたりのインタビュー時間は約 40 分から 120 分程度であった。なお対象者には、調査に先だって「公衆衛生行政医師のキャリア構築と育成に関するインタビュー調査のお願い」と題した調査企図と調査内容を示した文書及び、「インタビュー調査における倫理的配慮について」と題した書面を提出し、予め対象者から同意を得た。先進的取組を実施している自治体等の取り組みや、全国保健所長会による公衆衛生医師の新規確保方策および有効事例、課題と解決策を収集した。インタビュー後に逐語録を作成し、これまでのキャリアや現在の勤務環境に関する項目における質的分析を行い、論点を整理した。

3. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析④三師調査の個票分析

初年度にあたる今年度は、まず統計法第 32 条に基づく分析データの取得がおこなわれ、この申請には、交付決定通知を受領し倫理審査申請書の作成を始めた平成 29 年 11 月より統計法第 32 条での申請を経てデータの提供を受けた平成 30 年 4 月末まで約 6 か月の期間が必要であった。次年度の期間で、このデータを分析可能な形式に成型する作業と、分析可能になったデータについての分析を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に沿って実施し、神奈川県立保健福祉大学の研究倫理審査の承認を受けて実施した(番号 保大第 29-63)。

4. 厚生労働省公衆衛生医師確保政策にお

ける論点整理と課題抽出

研究班に関連の深い行政主体として厚生労働省の取り組みを取り上げ、ホームページ、審議等の過程で配布された検討資料、議事録等、既存資料の収集を行い、網羅的分析を実施した。さらに、社会医学系専門医制度や全国保健所長会の指針（ガイドライン）、実施要項、マニュアルなどを参照し、主な成果物について整理した。

C. 研究結果

1. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析①臨床医に対するアンケート調査

回収数は412名、男性医師90.3%、女性医師9.7%と男性に偏りが見られた。年代は50代が最多の39.3%、40代が23.1%、60代以上が22.1%、既婚者が80.6%、常勤職が90.8%、自治体勤務医は0.5%であった。医師資格を取得してからの平均年数は25.0年で30年～35年未満が25%で最多となった。主たる診療科は「内科」が111人で最も多く、「外科」40人、「整形外科」37人と続く。年間収入概算平均は1543万円。公衆衛生医師の年間収入が自身の年間収入よりも「高いと思う」人は10%、「同程度と思う」人は33%、「安いと思う」人は57%。概ね自身の年間収入より「安いと思う」人が多く、全体では概算平均で126万円安いと感じているという結果となった。希望するキャリアは「市中（民間）病院」が48%、以下「開業」16%、「医師以外の職業」10%の順。公衆衛生医師領域の認知率は62%、関心がある人は24%、希望している人は5%となり、認知率は60代以上

やベテラン医師で比較的高い一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向がみられる。

コンピテンシーについては『基礎的な臨床能力』の3項目と『分析評価能力』の「法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる」では「基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない」、それ以外の項目では「未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。」の割合が最も高くなっている。年代別にみると、30代以下では『分析評価能力』の「法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる」が全体より顕著に低い結果となった。勤務年数別にみると、中堅医師で全体的に各項目のスコアがやや高い傾向にあり、「自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。」が最も多い項目はコミュニケーション能力と倫理的行動能力であった。

2. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析③行政医師に対するインタビュー調査

【確保に関する現状と課題】

●現状

どの県においても、公衆衛生医師の確保は十分とはいえず、県と政令指定都市、都市部と地方の間でも医師職員数の格差が大きい。県によっては、県の地域医療支援センターがキャリア支援制度を設けており、医学生や若手医師に対して様々な支援をしている。

●業務分担

県職員として医師に何を期待しどのような業務を担って貰ったら良いか、あるいはどのような部署に配置するべきかと言うことが定まっていない。今後の医師の役割明確化が極めて重要である。

●広報

公衆衛生医師のやり甲斐を、いかに臨床医に伝え、理解してもらうか、全国保健所長会などでも、様々な取り組みをしているが、医師の確保に向けたターゲットが限られているのが現状である。例えば、保健所医師募集のポスターを作成しても、その張り先が限られ、大学の公衆衛生学教室以外に広報先を確保することが困難である。

その他の機会としては、レジナビで自治体毎にチラシやパンフレットを配布したり、若手医師や医学生を対象としたサマーセミナーを開催したり、ソーシャルメディア(facebookやtwitterなど)を使った方法も試行したりしているが、公務員ゆえに情報発信のしづらさがある。

公衆衛生行政医師のキャリアを広めるためのメディア戦略という意味では、ドラマで公衆衛生医師が取り上げられ、一般の認知度が高まるとよい。

医師の確保に向けたインターンシップの受入などの受入は、現在の人員や業務量では、受入態勢や受入プログラムを構築することが困難な自治体が多く、医師を惹きつけるだけの魅力を十分に発信できていない。

●臨床との兼業制度

臨床を続けて頂きつつ、公衆衛生領域にも関与して頂けるようなキャリアパスを作るなど、臨床医に対して参入ハードルを低くするような制度を構築したい。

●自治医科大学卒業生に対するアプローチ

自治医科大学の派遣規定には「知事の指定する医療機関または保健所」とあり、保健所勤務についても義務年限における業務対象となる。

●地域医療医師修学資金

知事が指定する県内医療機関や医師不足地域で9年間医師業務に従事することを条件として、貸与された資金の返還が免除されている。ある県では臨床医自体が少ないことから、今まで行政医師・保健所医師として派遣された例はほぼ皆無だった。

●業務内容と魅力の可視化

一般の医師にとって、医療行政職の業務は不透明で分かりづらい。その点では、ドラマや漫画などを通じて公衆衛生行政医師の業務やフィールドを端的に示すことが、公衆衛生行政医師を希望する者の拡大に効果的ではないか。

●他組織との人事交流制度

厚生労働省の医系技官では、一般の医療機関や大学、国際機関との人事交流制度がある。臨床と行政の人事交流のような制度が県レベルでもあれば、もう少し公衆衛生行政職に対するハードルが低くなるのではないかと考えられる。

都道府県レベルで医師の地域偏在を緩和するために協議会を開催することになったが、公衆衛生行政医師もそのような枠組みが求められる。その中で、大学や一般臨床との人事交流も高知県や京都府などでは、既に実施されているようだ。

専門医制度でも同様だが、大学との連携は一つの課題となっている。各大学の強みや研究領域などがよく見えず、どの様な連携をしたら良いかが分からない。そ

のあたりの見える化が必要だろう。

女性医師などで、結婚や出産を機に退職してしまった潜在医師は結構多いと思う。そのような医師も、ひょっとすると公衆衛生行政医師のなり手として可能性があるのではないだろうか。

●ワークライフバランス

臨床医師に比べて、公衆衛生行政医師のほうが週末にしっかり休みを取ることができ、比較的ワークライフバランスが取りやすい点などから、妊娠・出産の時期に該当する女性医師の働き方としては、価値が高いと考えられる。

地方では地域内での異動が女性医師にとってネックになるのに対して、都市部であれば職住が近いことが影響して公衆衛生医師が多い傾向が見られる。

一方で、中核市に就職してしまうと、全く異動がなくなってしまい、交流も限られてしまう。その意味では、より柔軟な人事交流が必要だと思う。

若手医師の多くは、QOLよりもむしろ、やり甲斐や、自己の成長、仕事で成し遂げられることに強い印象がある。その意味で、やり甲斐をしっかり発信することが大切だと思う。

●保健所勤務と本庁勤務のバランス

本庁勤務でなければできない案件も色々ある。県下全体を対象とする大きな仕事が多いので、ダイナミックでやりがいのある仕事ができる。ただし、人が足りないのは保健所の方であると言う点が難しい。

【養成に関する現状と課題】

保健所長を志す場合、原則として国立保健医療科学院(埼玉県和光市)が開講する

「【専門課程Ⅰ】保健福祉行政管理分野一分割前期(基礎)」を受講する必要がある。受講期間は約4ヶ月であるが、同院まで通学することは不可能である。地域の実情や、子育てなど医師の家庭環境に配慮した、例えばオンライン研修などが充実することで、このような課題を乗り越えられるのではないか。

特に求められる能力として疫学や調査研究能力など公衆衛生に直結する能力も重要だが、もう一つ重要な点がコミュニケーション能力ではないか。社会医学をやる上では、様々なステイクホルダーを納得させる必要がある。その先には、議会対応をはじめ行政マンとしての能力が絶対に必要になる。

比較的長い期間臨床医として活躍したのち行政職に移る医師の場合、それまでの経歴を踏まえて最初から課長補佐級などの職位で奉職するケースでは、いわゆる行政マンとしての能力を滋養する機会が限られてしまう。本来は一般行政職と一緒に研修を受講する必要があるが、医師自身が、または職場側が多忙を理由にして受講を回避することがあり、大きな課題だと考えている。

指導医の側も、若手医師にどのような経験をさせたらいいかわからないこともあるので、言わばキャリアラダーのようなものを作成する必要があると思う。

他にも、公衆衛生行政医師の育成の在り方を考える上では、行政医師を辞めてしまった方に対しても聞き取りができればいいと思う。本当は行政医師としてやりたかったのにやれなかったことなどが恐らくあるはず。そのあたりを明らかにすることが望ま

しい。

3. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析④三師調査の個票分析

統計法 3 2 条に基づき得られたデータは次年度に分析を行う予定である。

4. 厚生労働省公衆衛生医師確保政策における論点整理と課題抽出

厚生労働省のホームページ (3) より発信されている情報のうち本研究と関連性の高いものを時系列で整理した。まず、平成 17 年 1 月にまとめられた「公衆衛生医師の育成・確保のための環境整備に関する検討会報告書」(4) は多くの重要な指摘が含まれている。同報告書は平成 16 年 8 月と 10 月に行われた、地方公共団体、医育機関

(公衆衛生学教授等)、公衆衛生医師に対してのアンケートを基に作成され、中でも有用性が高いのは、別紙としてつけられた自治体向けのアクション・チェックリストである「公衆衛生医師の育成・確保のための環境整備に関するチェックシート」であった。

平成 25 年度地域保健総合推進事業の成果として平成 26 年 3 月 31 日に公開された「地方自治体における公衆衛生医師の確保と育成に関するガイドライン」は公衆衛生医師の職務に関する普及・啓発、確保、育成、ならびに確保・育成のための推進体制の整備と評価についての指針であり、地方自治体の人事担当者向けに作成されている。「公衆衛生医師の確保と育成に関するチェックリスト」や【事例紹介】など具体的な記載内容が見られる。

平成 27 年度地域保健総合推進事業の成

果物として 28 年 3 月に公開された「公衆衛生医師確保に向けた取り組み事例集」は「全国で取り組まれている公衆衛生医師確保のための方策を地域に紹介し、取組内容や工夫などを参考に、自地域での医師確保策の工夫につなげる」ことを目的に作成され、公衆衛生医師確保のポイントとして、①公衆衛生医師の PR ②キャリアパスの提示③大学との連携④その他関係機関との連携⑤医師ネットワークの構築が挙げられている。好事例として、青森県、群馬県、東京都、京都府、大阪府、福岡県、長崎県の 7 つの都府県が取り上げられ、取組の概要、取組の経緯、具体的な取り組み内容、課題と展望が網羅されているのが秀逸である。

D. 考察

1. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析①臨床医に対するアンケート調査

アンケートの対象は、男性の高年齢層 (50 代がピーク) の中堅医師、専門医資格を持つ層が多く、相対的に年間収入が高い傾向がみられたためか公衆衛生医師の年間収入が概ね自身の年間収入より「安いと思う」人が多いという結果となった。また希望するキャリアは「市中 (民間) 病院」が約半数を占め、公衆衛生分野の希望者は 5 % と圧倒的に少ない。これまでは公衆衛生医師領域の認知率が比較的高い 60 代以上のベテラン医師が行政職に転じる傾向が見られたが、今後は、ベテラン医師層だけでなく、比較的公衆衛生キャリアへの関心が高い女性や若手医師へのアプローチを補強する必要性が示唆された。

社会医学系専門医協議会が定める「社会医学系専門医が備えるべき8つのコンピテンシー」についての主観的評価では、ベテラン医師において自己評価が高い傾向がみられた。これまで臨床経験の中で蓄積されたこれらの能力を公衆衛生行政の現場でも活かすことが出来るということ、臨床とはまったく異なる技術や知識を学び直すわけではないということを示しつつ、第二の活躍の場として打ち出していくと効果的ではないかと考えられた。30代以下で「統計調査を正しく理解し、データを的確に使うこと」における自己評価が全体より顕著に低い結果となったことは、統計疫学的学問とデータサイエンス分野に対するハードルの高さが一因となっている可能性があり、プロモーションの一環として公衆衛生学の基礎的分析能力を高めるための教育機会を作ること、公衆衛生行政全体への敷居を低くし間口を広げる効果が期待できる。

2. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析③行政医師に対するインタビュー調査

本インタビューからは多様な意見を聴取できた。公衆衛生行政医師の魅力を広く伝えるためには、本研究でも多様性の包括を掲げて女性医師、若手医師、ベテラン医師、公衆衛生修士取得者、自治体の地域枠医師等の属性を明確にしている通り、各セグメントに適したプロモーションを行うなど、マーケティング手法を活用したブランディング戦略を検討する必要がある。

公衆衛生行政医師の育成に関しては、一貫して将来的なキャリア設計に基づいた「育成プログラム」や「研修機会」の欠如

について指摘があった。育成プログラムの欠如要因としては、そもそも公衆衛生行政医師の役割明確化が進んでいないことや長期的なキャリア設計が曖昧なことが挙げられる。具体的なキャリアパスを明示する上では、例えば平成28年に厚生労働省の「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」が定めた「自治体保健師の標準的なキャリアラダー」などを参考に、公衆衛生行政医師においてキャリアラダーを策定することもひとつの方法である。

なお、指導医の不足も課題となっていることから、公衆衛生行政医師を育成する機関を一定の地域単位で集約化・拠点化したり、人事交流制度を構築した上で指導医たる医師が在籍する機関に、地域を越えて若手医師を派遣したりするシステムを検討することも考えられる。

また、研修機会の欠如については、全国保健所長会のコンピテンシーや育成プログラムと連動して、継続的な研修機会の必要性を明確にすることが求められる。その上で、オンサイトの研修機会に限らず、オンライン講習機会の提供も有効であることが示唆された。社会医学系専門医協議会が提供する社会医学系専門医研修プログラムにオンライン研修制度を設けたり、国内外の公衆衛生大学院等と連携して、オンラインプログラムを開設したりすることなどを検討する価値があるものと考えられる。

3. 公衆衛生医師の現状における新たなデータ収集と分析④三師調査の個票分析

次年度のデータ分析による成果を待つ。

4. 厚生労働省公衆衛生医師確保政策にお

ける論点整理と課題抽出

本研究により既存の体制整備における成果を概観することが出来た。わが国では本研究テーマの先行研究として「公衆衛生医師の育成・確保のための環境整備に関するチェックシート」のように整理されたツールがすでに開発されており、このツールの自治体における活用状況と効果については引き続き検証する意味があると考えられた。

また、厚生労働省側対策案として、保健所長不在または兼務となっている自治体に対し、厚生労働省側からの通知等による働きかけや、厚生労働省健康局健康課公衆衛生医師確保推進室の行っている「公衆衛生医師確保推進登録事業」（マッチング事業）の拡充と周知も大きな役割を果たすと考えられる。

さらに、採用する自治体側の課題と対策案に視点を移すと、人口減少、交通アクセスの改善、住民の通信手段の充実を考え、保健所の必要数を定量的に検討する必要性が浮かび上がる。ほかに効果が期待される取り組みとしては、地域枠の医師の義務年限の枠に公衆衛生医師としての勤務期間を追加することも考えられる。現在、ほぼ全ての都道府県において医師確保の為に修学資金制度を整備しており、卒後9年間の義務年限を公衆衛生医師勤務に充てることも有効な対策と考えられる。

公衆衛生医師に向けた課題と対策案としては、社会医学系専門医を取得後にどのような利点がありうるかを明確にする必要がある。自治体と大学が連携して、社会人大学院を整備し、公衆衛生学修士号

(M. P. H.) や医学博士号 (Ph. D.) を取得

可能としたり、留学等のキャリアパスの設定やモデルケースの提示を行ったりする事も有効であろう。上記の卒後研修に加え国立感染症研究所の「実地疫学専門家養成コース：FETP-J」等国内研修への参加についても積極的に人事評価の対象としてゆく必要がある。

E. 結論

本研究では、公衆衛生医師の人材確保・育成に向け、本分野における政策評価の方法を提案するため既存の厚生労働省の公衆衛生医師確保対策を俯瞰し、対策の要素と課題を抽出した。

また、公衆衛生医師の現状に関する分析における新たなデータ収集と分析として、臨床医に対するアンケート調査および行政医師に対するインタビュー調査を行い、女性医師、若手医師や50～60代のベテラン医師が保健所をはじめとする公衆衛生分野で活躍するための職場環境の整備等について、課題の整理とモデルケースの抽出を行った。これらのエビデンスに基づき、各都道府県が公衆衛生医師の確保・育成を行う際に参考となる基礎資料をアップデートすることが可能となった。

今後、全国保健師長会と連携し、公衆衛生医師に対して求められる資質に関する新たな調査分析を行うとともに、三師調査の解析から離職率が高いとされる公衆衛生医師の現状について分析し、公衆衛生医師確保に資する資料を整備するとともに、公衆衛生医師の育成に関する具体的な指針を整備し、都道府県に向けて効果的に情報を還元して行くことが望まれる。

引用文献リスト

- (1) 厚生労働省：保健師に係る研修のあり方等に関する検討会(2016)「最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～」 Retrieved April 20, 2018 from <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000120158.pdf>
- (2) 社会医学系専門医協議会(2016)「専門研修プログラム整備基準」
- (3) 日本公衆衛生協会(2016)「公衆衛生医師の確保・人材育成に関する調査及び実践事業報告書」
- (4) 龍慶明・佐々木亮(2000)増補改訂版「政策評価」の理論と技法. 多賀出版.
- (5) 山谷清志 (2012) BASIC 公共政策学 9. 政策評価: ミネルヴァ書房.
- (6) 地域保健総合推進事業班 (2014)「公衆衛生に係る人材の確保・育成に関する調査及び実践活動」「公衆衛生医師(保健所等医師)の確保」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/koushuu-eisei-ishi/index.html
- (7) 厚生労働省 (2005) 「公衆衛生医師の育成・確保ための環境整備に関する検討会報告書」平成 17 年 1 月 18 日(公開).
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/01/s0118-4.html>
- (8) 厚生労働省 (2014) 「地方自治体における公衆衛生医師の確保と育成に関するガイドライン」平成 26 年 3 月 31 日(公開).
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koushuu-eisei-ishi/ikguideline.html>
- (9) 厚生労働省 (2016) 「公衆衛生医師確保に向けた取り組み事例集」平成 28 年 3 月(公開). 平成 27 年度地域保健総合推進事業.
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000119115.pdf>
- (10) 千葉県・千葉市 (2017) 社会医学系専門医研修「千葉県公衆衛生医師プログラム」平成 29 年度募集
http://shakai-senmon-i.umin.jp/doc/15_chibaken.pdf
- (11) 島根県 (2016) 社会医学系専門医研修「ごえんの国しまねプログラム」平成 28 年度募集
http://shakai-senmon-i.umin.jp/doc/2_shimane.pdf
- (12) 国立感染症研究所 (2016)「実地疫学専門家養成コース(FETP-J)」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/fetp.html>
- (13) 社会医学系専門医協会/横浜市立大学・北里大学・東海大学を基幹施設とする研修プログラム管理委員会 (2017) かながわ社会医学系専門医研修プログラム
http://shakai-senmon-i.umin.jp/doc/37_kanagawa.pdf

F. 健康危機情報

該当無し。

G. 研究発表

本年度該当無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況

本年度該当無し。

I. 謝辞

宇田英典先生（全国保健所長会会長）、宮園将哉先生（大阪府富田林保健所長）、清古愛弓先生（台東保健所長）、廣瀬浩美先生（愛媛県宇和島保健所長）はじめ地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）の諸先生方ならびに曾根智史先生（国立保健医療科学院次長）には、本研究遂行にあたり、多大なるご助力とご助言を頂きました。ここに深謝いたします。

II . 添付資料

臨床医師に関する調査結果報告書

臨床医師に関する調査 結果報告書

2018年3月23日

目次

調査概要	2
回答者属性	3
調査結果の要約	6
調査結果の詳細	10
医師資格を取得してからの年数	11
医師としての勤務期間	12
主たる診療科	13
専門医資格の有無	14
専門医資格名	15
公衆衛生医師の勤務経験	16
年間収入	17
自身の年間収入と公衆衛生医師の年間収入の差のイメージ	18
希望するキャリア	19
公衆衛生医師領域への興味関心	20
コンピテンシー回答	21
付録：調査票	29

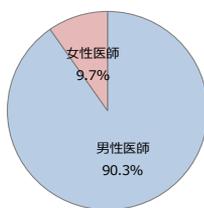
調査概要

- 調査目的 : 自治体（市町村の保健所等）で働く公衆衛生医師の確保や人材育成のために公衆衛生医師およびそれに関連する意識・実態等を調査することにより、今後の方向性探索における一助とする。
- 調査対象 : 25～70歳 男女
- 調査地域 : 全国
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2018年3月7日（水）～3月8日（木）
- 有効回答数 : 412サンプル
- 調査実施機関 : 株式会社マクロミル

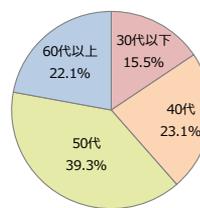
2

回答者属性① n=412

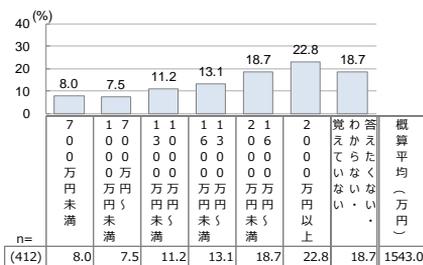
性別



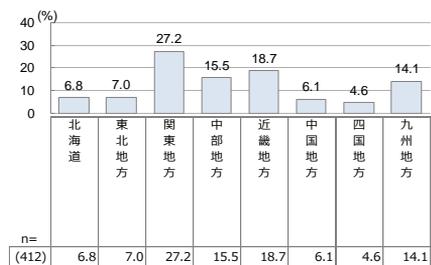
年代



年収 (Q12)



居住地域

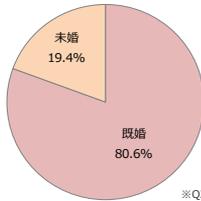


※概算平均 (万円) : 「答えたくない・わからない・覚えていない」を除き、選択肢の中央値から算出した概算平均値

3

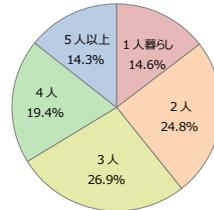
回答者属性② n=412

未婚

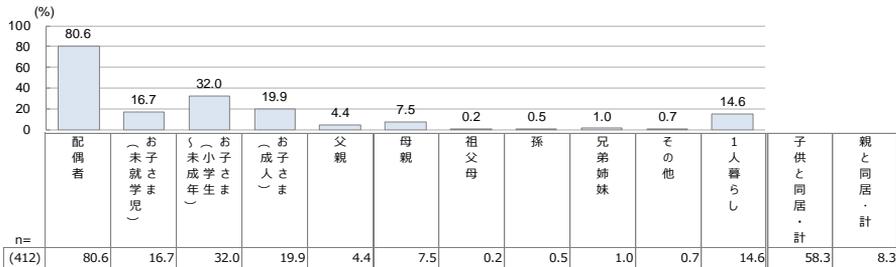


※Q2:家族構成にて「配偶者」と回答した人を「既婚」としている

同居家族人数 (Q1)



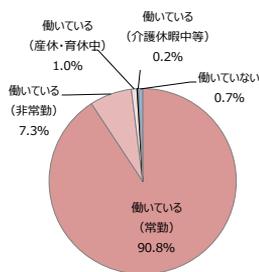
同居の家族 (Q2)



4

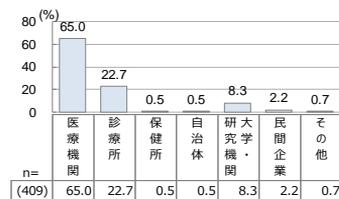
回答者属性③ n=412

医師として働いているか (Q4)



勤務先種別 (Q5)

※医師として働いている者ベース



勤務先地域 (Q6)

地域	(%)
北海道	7.0
青森県	1.5
岩手県	0.7
宮城県	1.9
秋田県	0.5
山形県	0.7
福島県	1.7
茨城県	0.7
栃木県	1.0
群馬県	1.0
埼玉県	2.7
千葉県	2.7
東京都	13.3
神奈川県	4.9
新潟県	1.2
富山県	0.5
石川県	1.9
福井県	0.2
山梨県	0.2
長野県	1.7
岐阜県	1.7
静岡県	0.7
愛知県	6.3
三重県	1.5
滋賀県	1.5
京都府	2.9
大阪府	7.5
兵庫県	4.4
奈良県	1.2
和歌山県	1.2
鳥取県	0.5
島根県	0.5
岡山県	1.5
広島県	2.4
山口県	1.2
徳島県	1.2
香川県	0.2
愛媛県	2.4
高知県	0.5
福岡県	5.3
佐賀県	1.0
長崎県	2.4
熊本県	1.5
大分県	0.5
宮崎県	0.7
鹿児島県	2.4
沖縄県	0.5
海外	0.2

5

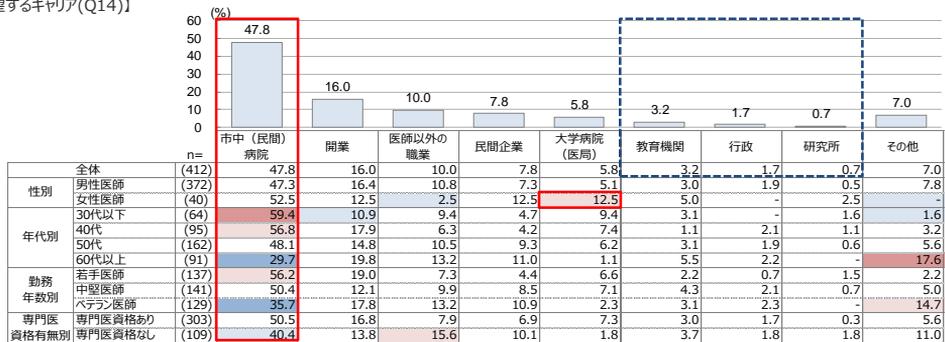
調査結果の要約

6

医師としての勤務実態・意識

- 医師資格を取得してからの年数(Q3)：平均25.0年。「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。
- 医師としての勤務期間(Q7)：平均24.4年。上記、医師資格を取得してからの年数とリンクした結果となっている。
- 主たる診療科(Q8)：「内科」が111人で最も多い。以下、「外科」40人、「整形外科」37人、「精神科」30人、「小児科」29人、「循環器内科」28人、「消化器内科（胃腸内科）」27人、「麻酔科」25人の順。
- 年間収入(Q12)：概算平均1543万円。男性、高齢層（50代がピーク）、中堅医師、専門医資格あり層で、相対的に年収が高い傾向。
- 希望するキャリア(Q14)：「市中（民間）病院」が48%と飛びぬけて高く、以下「開業」16%、「医師以外の職業」10%の順。「教育機関」「行政」「研究所」は数%と僅少。
女性では「大学病院（医局）」が13%と比較的高め。

【希望するキャリア(Q14)】



※勤務年数別の区分は以下の通り

若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

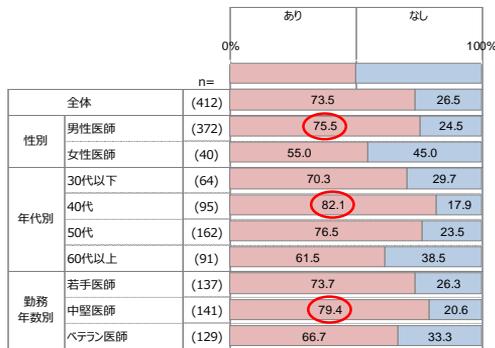
※全体植降順でソート

7

専門医資格の所有状況

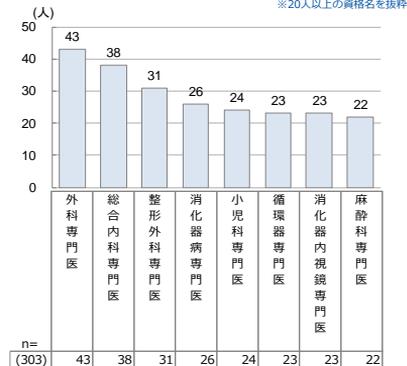
- 専門医資格を持っている人の割合は74%と全体の3/4を占める。
- 性別では男性、年代別では40代、勤務年数別では中堅医師で、専門医資格を持っている人の割合が相対的に高い。
- 所有している専門医資格名は、「外科専門医」が43人で最も多い。以下、「総合内科専門医」38人、「整形外科専門医」31人、「消化器病専門医」26人、「小児科専門医」24人、「循環器専門医」「消化器内視鏡専門医」各23人、「麻酔科専門医」22人の順。

【専門医資格の有無(Q9)】



※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

【所有している専門医資格名(Q10)】



※専門医有資格者ベース
※20人以上の資格名を抜粋

公衆衛生医師について

- 公衆衛生医師の勤務経験が「ある」人の割合は5%。専門医資格がない場合は、10%と比較的高めの数値となる。
- 公衆衛生医師の年収が自身の年収よりも「高いと思う」人は10%、「同程度と思う」人は33%、「安いと思う」人は57%。属性別にみると、女性や30代以下では「高いと思う」「同程度と思う」人の割合が相対的に高い。
- 公衆衛生医師領域の認知率は62%、関心がある人は24%、希望している人は5%。認知率は60代以上やベテラン医師で比較的高い。その一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向がみられる。

【公衆衛生医師について(Q11,13,15)】

属性	n	公衆衛生医師の勤務経験 (Q11) (%)	収入の差のイメージ (Q13)			公衆衛生医師の認知・関心・希望 (Q15)		
			高いと思う	同程度と思う	安いと思う	知っている	関心がある	希望している
			公衆衛生医師の年間収入は自身の年間収入よりも...					
全体	(412)	5.1	9.7	33.3	57.0	62.1	24.3	5.3
性別								
男性医師	(372)	4.8	8.3	33.6	58.1	62.4	23.7	5.4
女性医師	(40)	7.5	22.5	30.0	47.5	60.0	30.0	5.0
年代別								
30代以下	(64)	3.1	18.8	43.8	37.5	60.9	26.6	6.3
40代	(95)	7.4	2.1	29.5	68.4	57.9	27.4	6.3
50代	(162)	3.7	8.0	30.9	61.1	61.1	22.8	5.6
60代以上	(91)	6.6	14.3	34.1	51.6	69.2	22.0	3.3
勤務年数別								
若手医師	(137)	4.4	9.5	38.0	52.6	62.0	29.9	5.8
中堅医師	(141)	5.0	7.8	31.9	60.3	56.0	20.6	5.0
ベテラン医師	(129)	5.4	11.6	30.2	58.1	68.2	23.3	5.4
専門医資格有無別								
専門医資格あり	(303)	3.3	8.6	33.0	58.4	62.0	24.1	4.6
専門医資格なし	(109)	10.1	12.8	33.9	53.2	62.4	24.8	7.3

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

調査結果の詳細

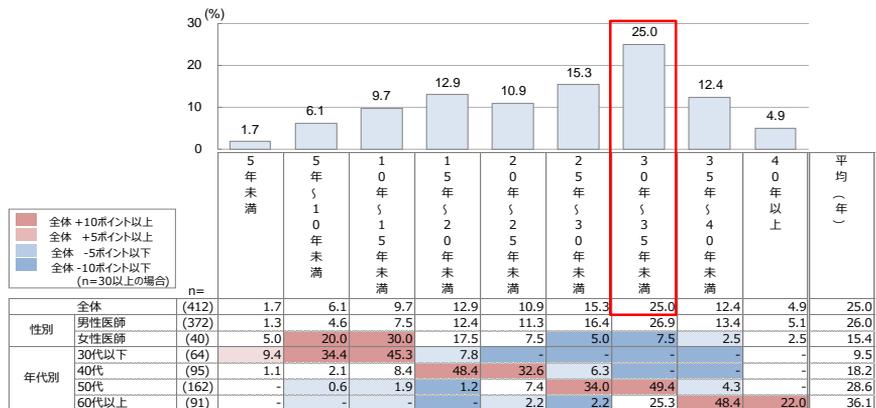
10

医師資格を取得してからの年数

- 医師資格を取得してからの年数は、「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。平均は25.0年。
- 性別にみると、女性より男性の方が医師資格を取得してからの年数が長い人が多く、平均で男性26.0年、女性15.4年となっている。

Q3 あなたは医師資格を取得してから何年目ですか？

FA



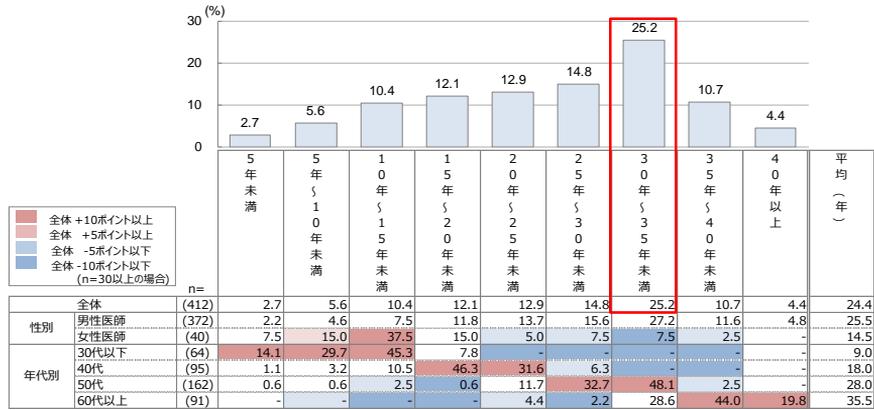
11

医師としての勤務期間

- 医師としての勤務期間は、「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。平均は24.4年。
- 前頁の医師資格を取得してからの年数とリンクした結果となっている。

Q7 あなたが医師として働いている(いた)期間をお答えください。

FA



12

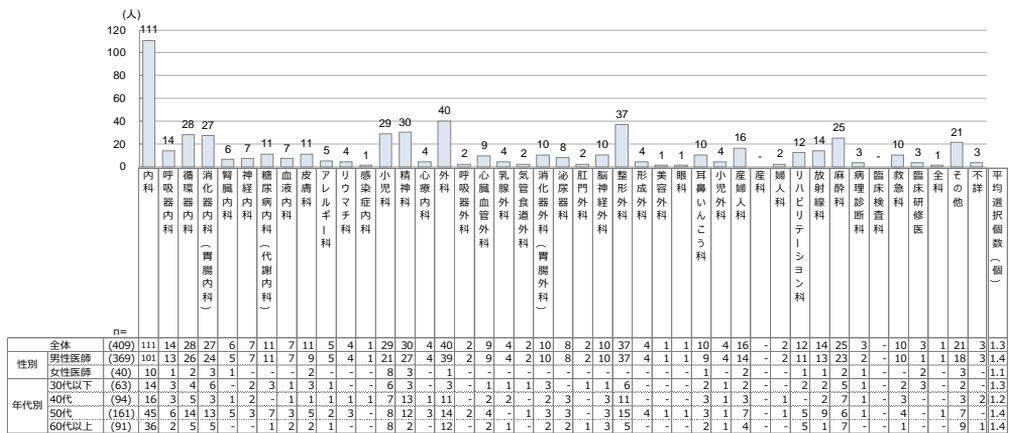
主たる診療科

- 主たる診療科は、「内科」が111人で最も多い。以下、「外科」40人、「整形外科」37人、「精神科」30人、「小児科」29人、「循環器内科」28人、「消化器内科(胃腸内科)」27人、「麻酔科」25人の順。
- 一人あたり、平均で1.3個選択している。

Q8 あなたの主たる診療科を教えてください。(いくつでも)

MA

※現在医師として働いている者ベース



※平均選択個数(個)：一人あたりが選択した選択肢の平均個数

13

公衆衛生医師の勤務経験

- 公衆衛生医師の勤務経験が「ある」人の割合は5%。「ある」人の勤務経験平均年数は10.0年となっている。
- 専門医資格がない場合は、勤務経験者が10%と比較的高く、勤務経験平均年数も12.6年とやや長めとなっている。

Q11 ご自身の公衆衛生医師の勤務経験の有無について教えてください。公衆衛生医師の勤務経験がある場合はその期間を教えてください。

SA



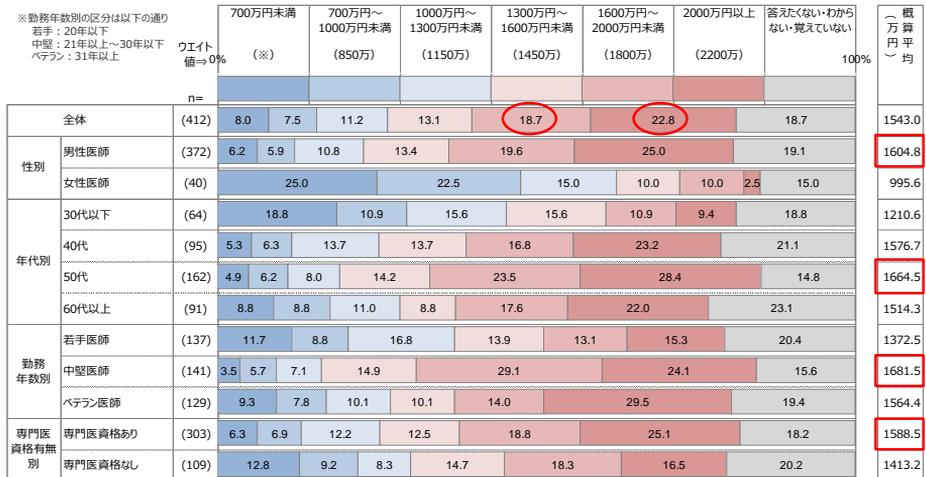
16

年間収入

- 年間収入は、「1600万円～2000万円未満」19%、「2000万円以上」23%がボリュームゾーン。概算平均で1543万円。
- 属性別に概算平均をみると、性別では男性、年代別では高齢層（50代がピーク）、勤務年数別では中堅医師、専門医資格有無別では資格あり層で、相対的に年間収入が高い傾向がみられる。

Q12 ご自身の現在の年間収入を教えてください。

SA



※700万円未満のウエイト値は左記のように設定（100万未満・・・50万、100～400万未満・・・250万、400～700万未満・・・550万）

※概算平均（万円）：「答えたくない・わからない・覚えていない」を除き、選択肢の中央値から算出した概算平均値

17

自身の年間収入と公衆衛生医師(常勤)の年間収入の差のイメージ

- 公衆衛生医師の年間収入が自身の年間収入よりも「高いと思う」人は10%、「同程度と思う」人は33%、「安いと思う」人は57%。
- 概ね自身の年間収入より「安いと思う」人が多く、全体では概算平均で126万円安いと思っている。年収別の1000万円未満の場合のみ、概算平均値がプラス(自身の年間収入より高いと思う)という結果であった。

Q13 ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師(常勤)の年間収入の差に関するイメージについてお答えください
公衆衛生医師の収入はご自身と同一経験年数かつ同年齢の公衆衛生医師(常勤)の年間収入と仮定してください。

SA

公衆衛生医師の年間収入は自身の年間収入よりも・・・

	n	イメージ							概算平均(万円)
		300万円以上高いと思う (+300.0)	200万円以上高いと思う (+200.0)	100万円以上高いと思う (+100.0)	同程度と思う (+0.0)	100万円以上安いと思う (-100.0)	200万円以上安いと思う (-200.0)	300万円以上安いと思う (-300.0)	
全体	(412)	7.3	33.3	6.3	7.5	43.2			-126.0
性別									
男性医師	(372)	6.5	33.6	5.1	7.3	45.7			-134.7
女性医師	(40)	15.0	7.5	30.0		17.5	10.0	20.0	-45.0
年代別									
30代以下	(64)	14.1	3.1	43.8		6.3	4.7	26.6	-46.9
40代	(95)	2.1	29.5	10.5	11.6	46.3			-166.3
50代	(162)	6.8	30.9	4.3	8.0	48.8			-144.4
60代以上	(91)	8.8	4.4	34.1	5.5	4.4	41.8		-106.6
勤務年数別									
若手医師	(137)	7.3	38.0	8.8	6.6	37.2			-108.8
中堅医師	(141)	6.4	31.9	5.7	11.3	43.3			-136.9
ベテラン医師	(129)	7.8	3.1	30.2	4.7	3.1	50.4		-134.1
専門医資格有無別									
専門医資格あり	(303)	6.9	33.0	6.3	8.3	43.9			-131.7
専門医資格なし	(109)	8.3	2.8	33.9	6.4	5.5	41.3		-110.1
年収別									
700万円未満	(33)	3.0	6.1	27.3	15.2	6.1	3.0	33.0	93.9
700万円～1000万円未満	(31)	6.5	3.2	9.7	58.1			16.1	6.5
1000万円～1300万円未満	(46)	6.5		50.0		6.5	13.0	23.9	-84.8
1300万円～1600万円未満	(54)	9.3	29.6	7.4	5.6	46.3			-127.8
1600万円～2000万円未満	(77)		29.9	2.6	10.4	55.8			-189.6
2000万円以上	(94)	5.3	11.7			80.9			-229.8
答えたくない/わからない/覚えていない	(77)	2.6		48.1		7.8	11.7	28.6	-106.5

※概算平均(万円)：ウエイト値から算出した概算平均値

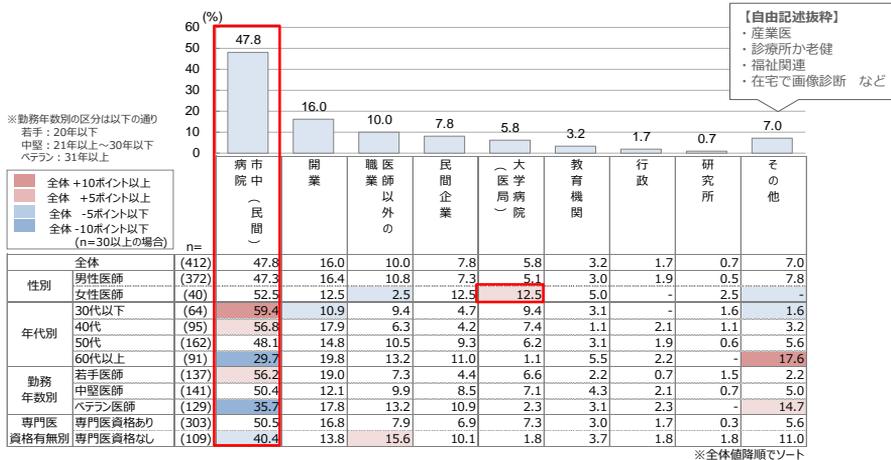
18

希望するキャリア

- 希望するキャリアは、「市中(民間)病院」が48%と飛びぬけて高く、以下「開業」16%、「医師以外の職業」10%の順。
- いずれの属性も「市中(民間)病院」が最も高い。とりわけ、若年層、若手医師などで「市中(民間)病院」を希望する割合が高い傾向。
- 女性では「大学病院(医局)」が13%と比較的高い。

Q14 あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。

SA



19

公衆衛生医師領域への興味関心

- 公衆衛生医師領域の認知率は62%、関心がある人は24%、希望している人は5%。
- 認知率は高年齢層やベテラン医師で比較的高い。その一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向。

Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。

SA

※勤務年数別の区分は以下の通り

若手：20年以下
 中堅：21年以上～30年以下
 ベテラン：31年以上

全体 +10ポイント以上
 全体 +5ポイント以上
 全体 -5ポイント以下
 全体 -10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

	n	興味関心						※計 希望 して いる	※計 関心 が ある	※計 認知 率
		①公衆衛生医師に 関心があり 希望している	②公衆衛生医師に 関心はないが 希望している	③公衆衛生医師に 関心はあるが キャリアとしては 希望していない	④公衆衛生医師に 関心もなく キャリアとしても 希望していない	⑤公衆衛生医師に ついてあまり知らない	⑥公衆衛生医師に ついて全知らない ・初め聞いた			
全体	(412)	3.9	20.4	36.4	29.9	8.0	5.3	24.3	62.1	
性別										
男性医師	(372)	4.0	19.6	37.4	29.3	8.3	5.4	23.7	62.4	
女性医師	(40)	2.5	27.5	27.5	35.0	5.0	5.0	30.0	60.0	
年代別										
30代以下	(64)	4.7	25.0	29.7	34.4	4.7	6.3	26.6	60.9	
40代	(95)	5.3	22.1	29.5	37.9	4.2	6.3	27.4	57.9	
50代	(162)	4.9	17.9	37.7	28.4	10.5	5.6	22.8	61.1	
60代以上	(91)	2.2	19.8	46.2	20.9	9.9	3.3	22.0	69.2	
勤務 年数別										
若手医師	(137)	3.6	26.3	29.9	32.8	5.1	5.8	29.9	62.0	
中堅医師	(141)	3.5	17.0	34.0	36.2	7.8	5.0	20.6	56.0	
ベテラン医師	(129)	4.7	18.6	44.2	20.2	11.6	5.4	23.3	68.2	
専門医 資格有無 別										
専門医資格あり	(303)	3.6	20.5	37.0	30.7	7.3	4.6	24.1	62.0	
専門医資格なし	(109)	4.6	20.2	34.9	27.5	10.1	7.3	24.8	62.4	

*スコア2%未満は非表示

※希望している計=①+② ※関心がある計=①+③ ※認知率計=①+②+③+④

コンピテンシー回答_項目グループ1-3

- 『基礎的な臨床能力』の3項目と『分析評価能力』の「法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを確に使うことができる」では「基本レベル」、それ以外の項目では「未経験」の割合が最も高くなっている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

- [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない、わからない。
 [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。
 [3] 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

	n	経験レベル		
		未経験	基本レベル	自立レベル
臨床基礎能力				
医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前座に、個人や集団の背景や環境等を踏まえて、疾病の予防や管理、再発防止や機能低下の防止について管理指導を行うことができる	(412)	26.5	37.4	36.2
疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関するリスクを評価し、改善、管理、予防対策を講じることができる	(412)	26.9	40.3	32.8
分析評価能力				
法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを確に使うことができる	(412)	36.7	42.0	21.4
統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題を明らかにできる	(412)	45.4	39.1	15.5
特定集団の健康水準ならびに健康決定条件を把握するための指標について理解し、使用することができる	(412)	45.4	37.9	16.7
課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データベースを構築することができる	(412)	46.1	38.1	15.8
特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる	(412)	48.8	36.4	14.8
新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に評価することができる	(412)	55.1	31.3	13.6
様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価することができる	(412)	44.2	40.0	15.8
健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる	(412)	50.0	38.6	11.4
課題解決能力				
施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる	(412)	46.4	38.1	15.5
利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内に成果をあげて完了させることができる	(412)	48.3	36.9	14.8
財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる	(412)	59.7	29.1	11.2
新たな事業に必要な予算の算定、事業の効率性、事業効果の重要性、資源の有効活用などの点から的確に行うことができる	(412)	59.0	29.9	11.2
経営計画の立案と評価を行い、対策の査定、事業の継続または中止の判断ができる	(412)	57.8	30.6	11.7
不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処することができる	(412)	46.6	39.3	14.1

コンピテンシー回答項目グループ4-7

■ 『パートナーシップの構築能力』『研究推進と成果の還元能力』では「未経験」の割合が最も高い項目が多いが、『倫理的行動能力』の3項目では「基本レベル」の割合が過半数を占めている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

- [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない、わからない。
- [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。
- [3] 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

		0%	未経験	基本レベル	自立レベル	100%
コミュニケーション能力	口頭・文書により組織の内外と適切な露骨な意思疎通をはかることができる	(412)	23.8	47.6	28.6	
	健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの役割を理解し、活用できる	(412)	38.3	42.0	19.7	
	ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメディアに対応できる	(412)	41.3	43.4	15.3	
	ソーシャルマーケティングとコミュニケーションの理論を理解し上での的確に活用し、人々の健康に係わるメディア戦略の立案と展開に貢献できる	(412)	54.4	34.2	11.4	
パートナーシップ構築能力	国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え、サービスシステムを適切に評価し、様々な場面での意思決定に役立てることができる	(412)	49.8	38.6	11.7	
	複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築し取り組むことができる	(412)	37.6	44.2	18.2	
	保健衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を見出し、参画させることができる	(412)	56.3	31.6	12.1	
	複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業務を行うための技術と能力がある	(412)	45.9	37.6	16.5	
研究推進能力	関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することができる	(412)	54.1	33.5	12.4	
	他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業を、計画、実施、完了できる	(412)	55.6	31.3	13.1	
	幅広い層の人々を対象に公衆衛生活動について指導・教育する能力がある	(412)	55.8	31.3	12.9	
	人材育成についての知識、技術と態度を身につけている	(412)	44.2	36.9	18.9	
成果の還元能力	関係する組織の職員に指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的なフィードバックを行うことにより職員の資質向上を図ることができる	(412)	51.0	35.0	14.1	
	研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる	(412)	37.1	42.5	20.4	
	様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる	(412)	41.5	41.0	17.5	
	公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している	(412)	58.7	31.3	10.0	
行動的能力	公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる	(412)	65.0	26.0	9.0	
	患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる	(412)	58.7	29.6	11.7	
	研究成果を論文として発表できる	(412)	35.0	42.0	23.1	
	保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる	(412)	61.7	27.4	10.9	
倫理的行動能力	職業上の倫理規範を遵守している	(412)	24.9	54.1	25.0	
	秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理的に適切な情報管理を行う	(412)	20.0	51.0	25.0	
	常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受ける	(412)	23.8	53.4	22.8	

22

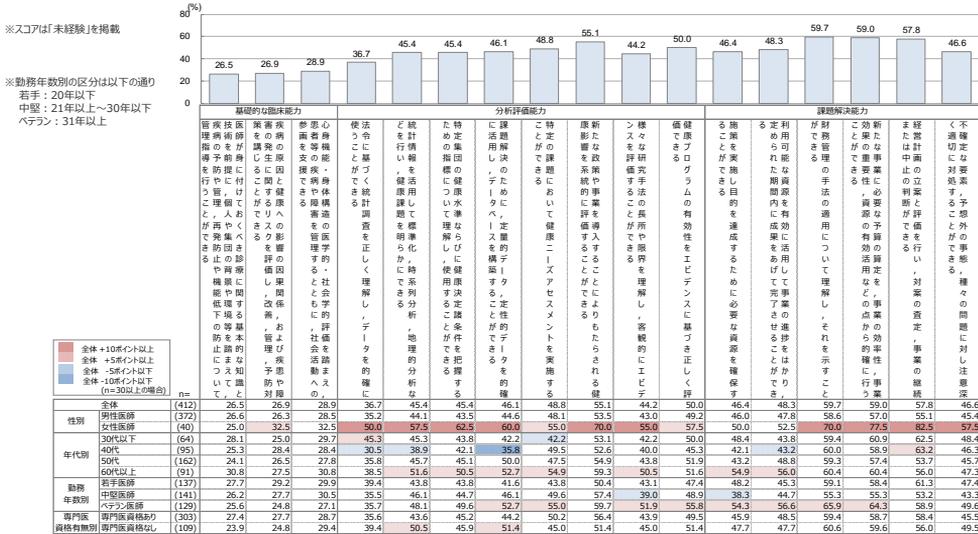
コンピテンシー回答【未経験】項目グループ1-3

■ 性別で見ると、女性は全般的に未経験率が高い傾向。
 ■ 年代別、勤務年数別に見ると、60代以上、ベテラン医師で『分析評価能力』『課題解決能力』の未経験率がやや高い。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

- [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない、わからない。



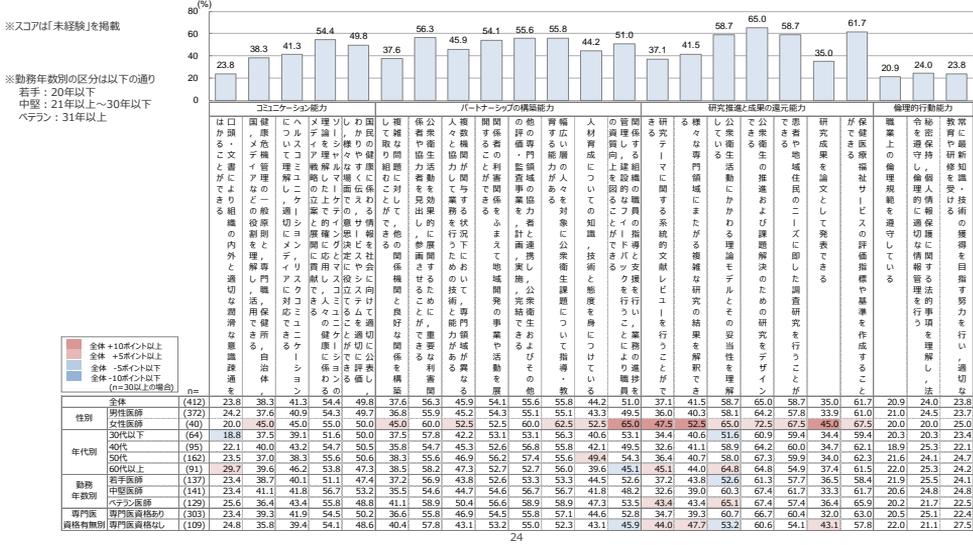
23

コンピテンシー回答【未経験】項目グループ4-7

■ 前頁同様、女性の未経験率の高さが目立っている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください
 [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない、わからない。

SA

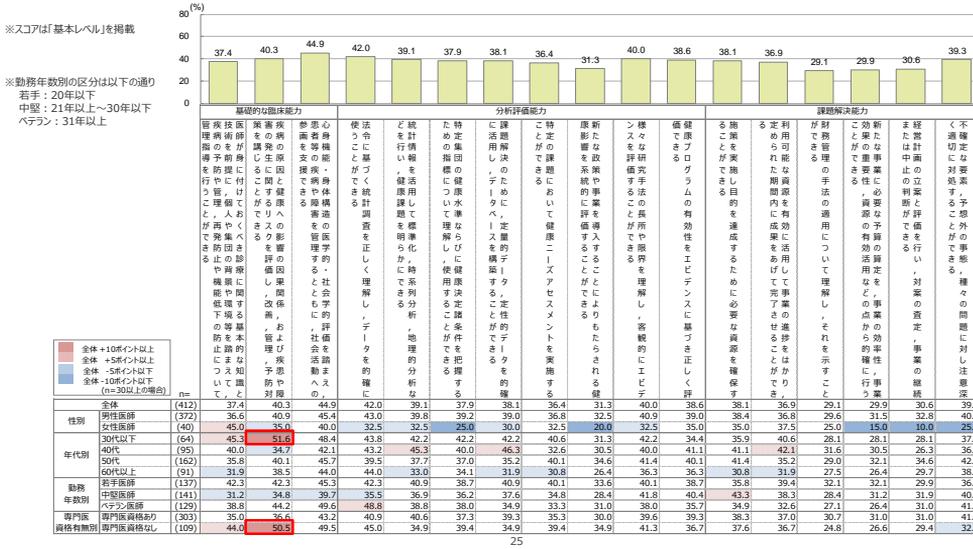


コンピテンシー回答【基本レベル】項目グループ1-3

■ 未経験率が高い女性では、基本レベル率が相対的に低くなっている。
 ■ 『基礎的な臨床能力』では30代以下、専門医資格なし層で基本レベル率が高い傾向。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください
 [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。

SA



コンピテンシー回答【自立レベル】_項目グループ4-7

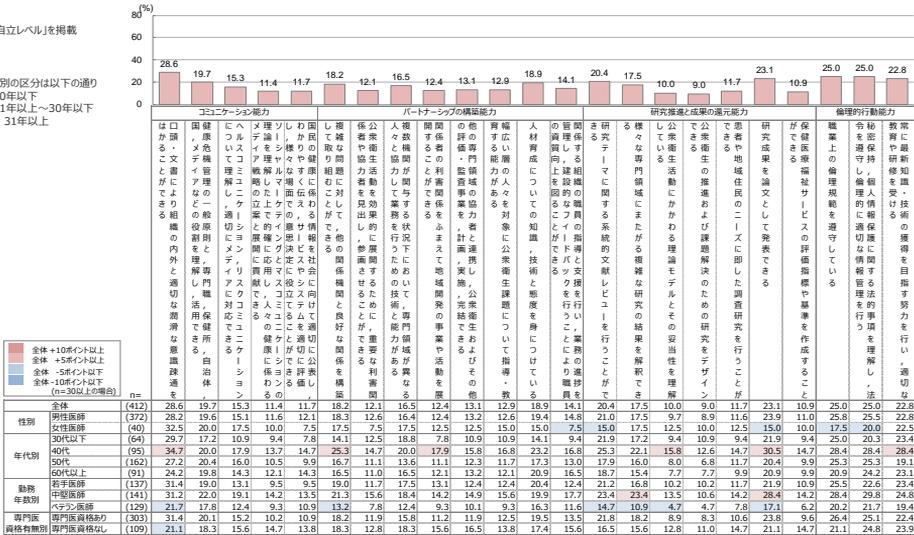
■ 40代、中堅医師で全体的にスコアがやや高い傾向。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください
 [3] 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

SA

※スコアは「自立レベル」を掲載

※勤務年数別の区分は以下の通り
 若手：20年以下
 中堅：21年以上～30年以下
 ベテラン：31年以上



■ 全体+10%ポイント以上
 ■ 全体+5%ポイント以上
 ■ 全体-5%ポイント以下
 ■ 全体-10%ポイント以下
 (n=30以上の場合)

性別	全体	若手	中堅	ベテラン
男性医師	28.6	19.7	15.3	11.4
女性医師	28.6	19.7	15.3	11.4
30代以下	28.6	19.7	15.3	11.4
40代	28.6	19.7	15.3	11.4
50代	28.6	19.7	15.3	11.4
60代以上	28.6	19.7	15.3	11.4
若手医師	28.6	19.7	15.3	11.4
中堅医師	28.6	19.7	15.3	11.4
ベテラン医師	28.6	19.7	15.3	11.4
専門医	28.6	19.7	15.3	11.4
専門医資格あり	28.6	19.7	15.3	11.4
資格無効	28.6	19.7	15.3	11.4
専門医資格なし	28.6	19.7	15.3	11.4

付録：調査票

調査票

ご所属の主治医の氏名・職名に関するアンケート
下記アンケートにご協力をお願いいたします。

※調査については無償でのご協力をお願いいたします。決して費用を請求いたしません。ご協力をお願いします。
アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンはご利用いただけません。

必須入力

Q1 あなたご自身を含めた、同居家族の人数をお答えください。
※家族以外の方は除いてお答えください。
※ペットは含めずにお答えください。

100%

- ① 1人暮らし（同居の家族はいない）
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人
- ⑤ 5人以上

.....< ここまでページ

- セリット条件： Q01 で3と回答した方
- Q02必須入力
- Q2_M1：半角数字 / 最大1 / 最小0 / 整数
- Q2_M2：必須入力
- Q2_M3：半角数字 / 最大1 / 最小0 / 整数
- Q2_M4：必須入力
- Q2_M5：半角数字 / 最大1 / 最小0 / 整数
- Q2_M6：必須入力
- Q2_M7A：必須入力

Q2 同居のご家族をお答えください。（いくつでも）
※ご自身からみた続柄でお答えください。

- ① 配偶者
- ② お子さま（未婚学歴）： [半角数字]名
- ③ お子さま（お子さまの配偶者を含む）（小学生～未成年）： [半角数字]名
- ④ お子さま（お子さまの配偶者を含む）（成人）： [半角数字]名
- ⑤ 父親（配偶者の父親を指す）
- ⑥ 母親（配偶者の母親を指す）
- ⑦ 祖父（配偶者の祖父を指す）
- ⑧ 孫
- ⑨ 兄弟姉妹（配偶者の兄弟姉妹を指す）
- ⑩ その他
[必須入力]

.....< ここまでページ

調査票

- Q3必須にする全てのFA欄
- L_N1：半角数字 / 最大1 / 最小0 / 整数

Q3 あなたは医師資格を取得してから何年目ですか？

.....< ここまでページ

必須入力

Q4 あなたは現在医師として働いていますか？

- ① 働いている（常勤）
- ② 働いている（非常勤）
- ③ 働いている（産休・育休中【子どもに関するもの等】）
- ④ 働いている（介護休暇中【自分・親・配偶者・祖父母に関するもの等】）
- ⑤ 働いていない

.....< ここまでページ

- セリット条件： Q01 で4と回答した方
- Q5必須入力
- Q5_FA1：必須入力

Q5 当前で現在医師として働いているまたは休職しているとお答えの方にお伺いいたします。
あなたが主に働いている（いた）勤務先の種別をお答えください。（ひとつだけ）

- ① 医療機関
- ② 診療所
- ③ 保健所
- ④ 自治体
- ⑤ 大学・研究機関
- ⑥ 民間企業
- ⑦ その他
[必須入力]

.....< ここまでページ

調査票

● 必須入力

Q9
あなたは専門医資格を持っていますか？
※専門医とは専門医組織が認定する専門医を指します。

専門医資格

① あり

② なし

.....< ここまで戻る

● セレクト条件： Q9で1を選択した方
● 必須入力

Q10
複数で専門医資格を持っていると回答の方にお伺いいたします。
あなたがご持ちの専門医資格名を教えてください。（いくつでも）

① 社会医学系専門医

② 総合内科専門医

③ 呼吸器専門医

④ 循環器専門医

⑤ 消化器病専門医

⑥ 腎臓専門医

⑦ 肝臓専門医

⑧ 神経内科専門医

⑨ 糖尿病専門医

⑩ 内分泌代謝科専門医

⑪ 血液専門医

⑫ 皮膚科専門医

⑬ アレルギー専門医

⑭ リウマチ専門医

⑮ 感染症専門医

⑯ 小児科専門医

⑰ 心療内科専門医

⑱ 外科専門医

⑲ 呼吸器外科専門医

⑳ 心臓血管外科専門医

㉑ 乳腺専門医

㉒ 気管食道科専門医

㉓ 消化器外科専門医

㉔ 泌尿器科専門医

㉕ 脳神経外科専門医

㉖ 整形外科専門医

㉗ 形成外科専門医

調査票

⑲ 眼科専門医

⑳ 耳鼻咽喉科専門医

㉑ 小児外科専門医

㉒ 産婦人科専門医

㉓ リハビリテーション科専門医

㉔ 放射線科専門医

㉕ 麻酔科専門医

㉖ 病理専門医

㉗ 救急科専門医

㉘ 超音波専門医

㉙ 細胞診専門医

㉚ 透析専門医

㉛ 老年病専門医

㉜ 消化器内視鏡専門医

㉝ 臨床遺伝専門医

㉞ 漢方専門医

㉟ レーザー専門医

㊱ 気管支鏡専門医

㊲ 核医学専門医

㊳ 大腸肛門内科学専門医

㊴ 補人科腫瘍専門医

㊵ ベイシククリニック専門医

㊶ 熱帯専門医

㊷ 脳血管内治療専門医

㊸ がん薬物療法専門医

㊹ 周産期(新生児)専門医

㊺ 生体医療専門医

㊻ 小児神経専門医

㊼ 一般病院長連携精神医学専門医

.....< ここまで戻る

● 必須入力
● 1以上/年数等/歳か1/歳50/歳数
● 必須入力

Q11
※行政機関（保健所等）に勤務する公衆衛生医（以下、「公衆衛生医」と）に関する質問です。
※自身の公衆衛生医としての勤務経験の有無について教えてください。公衆衛生医としての勤務経験がある場合はその期間を教えてください。
※月数は切り上げてお答えください。

【回答】公衆衛生医としての勤務経験が

① ある [中高数字] 年間

② ない

調査票

3 < ここまでページ

必須入力

Q12
ご自身の現在の年間収入を教えてください。
※手取りではなく給与振込の総額（前期）をお答えください。

① 100万円未満
② 100万円～400万円未満
③ 400万円～700万円未満
④ 700万円～1000万円未満
⑤ 1000万円～1300万円未満
⑥ 1300万円～1600万円未満
⑦ 1600万円～2000万円未満
⑧ 2000万円以上
⑨ 答えたくない・わからない・覚えていない

3 < ここまでページ

必須入力

Q13
ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医（常勤）の年間収入の差に関するイメージについてお答えください。
公衆衛生医の収入はご自身と同一経験年数かつ同年齢の公衆衛生医（常勤）の年間収入を仮定してください。
※手取りではなく給与振込の総額（前期）をお答えください。

【回答】公衆衛生医の年間収入はご自身の年間収入よりも

① 300万円以上高いと思う。
② 200万円以上高いと思う。
③ 100万円以上高いと思う。
④ 同程度（±100万円未満）と思う。
⑤ 100万円以上安いと思う。
⑥ 200万円以上安いと思う。
⑦ 300万円以上安いと思う。

3 < ここまでページ

36

調査票

必須入力
必須入力

Q14
あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。

① 教育機関
② 大学病院（医局）
③ 市中（民間）病院
④ 開業
⑤ 研究所
⑥ 行政
⑦ 民間企業
⑧ 医師以外の職業
⑨ その他
[必須入力]

3 < ここまでページ

選択された条件
質問 No. : Q111 での答えた方
必須入力

Q15
あなたにとって公衆衛生医という領域の興味関心について教えてください。
※現在公衆衛生医として勤務している場合は今後の意向をお答えください。

① 公衆衛生医に関心があり（将来）公衆衛生医を希望している
② 公衆衛生医に関心はないが（将来）公衆衛生医を希望している
③ 公衆衛生医に関心はあるがキャリアとしては希望していない
④ 公衆衛生医に関心もなくキャリアとしても希望していない
⑤ 公衆衛生医についてあまり知らない
⑥ 公衆衛生医について全く知らない・初めて聞いた

3 < ここまでページ

37

調査票

- 作成者(医師)と 職名
- 必須入力(必須項目)

Q16

これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。
経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

▲ 説明文を閉じたい

※ 第一情報 ※ 必須項目

基礎的な臨床能力

医師が保に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人や集団の自費や保険等を超えて、疾病の予防や管理、再発防止や機能低下の防止について管理指導を行うことができる。	1 / 40%
疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関するリスクを評価し、改善、管理、予防対策を講じることができる。	2 / 40%
心身機能・身体構造の医学的・社会的評価（疾患の程度、機能障害、活動の制限、参加の制約の状態）を踏まえ、患者等の疾病や障害を管理するとともに、社会活動への参画を支援できる。	3 / 40%

分析評価能力

法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる。	4 / 40%
統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題を明らかにできる。	5 / 40%
特定集団の健康水準ならびに健康決定条件を把握するための指標について理解し、使用することができる。	6 / 40%
課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データベースを構築することができる。	7 / 40%
特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる。	8 / 40%
新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に評価することができる。	9 / 40%
様々な研究方法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価することができる。	10 / 40%
健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる。	11 / 40%

課題解決能力

施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる。	12 / 40%
利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内に成果をあげて完了させることができる。	13 / 40%
財務管理の手法の活用について理解し、それを示すことができる。	14 / 40%
新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資源の有効活用などの観点から的確に行うことができる。	15 / 40%
経営計画の立案と評価を行い、対策の算定、事業の継続または中止の判断ができる。	16 / 40%
不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対応することができる。	17 / 40%

コミュニケーション能力

口頭・文書により組織の内外と適切な高度な意思疎通をはかることができる。	18 / 40%
健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの役割を理解し、活用できる。	19 / 40%
ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメディアに対応できる。	20 / 40%
ソーシャルマーケティングとリスクコミュニケーションの理論を理解した上で的確に応用し、人々の健康に係わるメディア戦略の立案と展開に貢献できる。	21 / 40%
国民の健康に係る情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え、サービスやシステムを適切に評価し、様々な場面で意思決定に役立てることができる。	22 / 40%

調査票

パートナーシップの構築能力

複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むことができる。	23 / 40%
公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を見出し、参画させることができる。	24 / 40%
複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業務を行うための技術と能力がある。	25 / 40%
関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することができる。	26 / 40%
他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業を、計画、実施、完結できる。	27 / 40%
幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力がある。	28 / 40%
人材育成についての知識、技術と態度を身につけている。	29 / 40%
関係する組織の職員への指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的なフィードバックを行うことにより職員の質向上を図ることができる。	30 / 40%

研究推進と成果の還元能力

研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる。	31 / 40%
様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる。	32 / 40%
公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している。	33 / 40%
公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる。	34 / 40%
患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる。	35 / 40%
研究成果を論文として発表できる。	36 / 40%
保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる。	37 / 40%

倫理的行動能力

職業上の倫理規範を遵守している。	38 / 40%
秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理的に適切な情報管理を行う。	39 / 40%
常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受ける。	40 / 40%

① 【1】 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない、わからない。

② 【2】 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。

③ 【3】 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

● 閉じる

アンケートは以上で終わります。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送信

公衆衛生医師の人材確保・育成に関する
アンケート

公衆衛生医師の人材確保・育成に関するアンケート

[比率の差]		
	全体	+10 ポイント
	全体	+5 ポイント
	全体	-5 ポイント
	全体	-10 ポイント

n = 30 以上

No.	表題	質問文	%表
1		都道府県_性別	TABLE[都道府県_性別]
2		家族構成_1	TABLE[家族構成_1]
3		家族構成_2	TABLE[家族構成_2]
4		公衆衛生医師経験_1	TABLE[公衆衛生医師経験_1]
5		公衆衛生医師経験_2	TABLE[公衆衛生医師経験_2]
6		収入_キャリア_1	TABLE[収入_キャリア_1]
7		収入_キャリア_2	TABLE[収入_キャリア_2]
8		収入区分別	TABLE[収入区分別]
9		コンピテンシー回答内訳_1	TABLE[コンピテンシー回答内訳_1]
10		コンピテンシー回答内訳_2	TABLE[コンピテンシー回答内訳_2]
11		コンピテンシー回答内訳_3	TABLE[コンピテンシー回答内訳_3]

SEX

性別

		横%		男性	女性
全体		412	90.3	9.7	
Q6 あなたが働いている (いた)主な勤務先の都 道府県をお答えくださ い。	北海道	29	93.1	6.9	
	青森県	6	100.0	0.0	
	岩手県	3	100.0	0.0	
	宮城県	8	87.5	12.5	
	秋田県	2	100.0	0.0	
	山形県	3	100.0	0.0	
	福島県	7	85.7	14.3	
	茨城県	3	100.0	0.0	
	栃木県	4	100.0	0.0	
	群馬県	4	100.0	0.0	
	埼玉県	11	100.0	0.0	
	千葉県	11	100.0	0.0	
	東京都	55	89.1	10.9	
	神奈川県	20	75.0	25.0	
	新潟県	5	80.0	20.0	
	富山県	2	100.0	0.0	
	石川県	8	100.0	0.0	
	福井県	1	100.0	0.0	
	山梨県	1	100.0	0.0	
	長野県	7	71.4	28.6	
	岐阜県	7	71.4	28.6	
	静岡県	3	100.0	0.0	
	愛知県	26	92.3	7.7	
	三重県	6	100.0	0.0	
	滋賀県	6	100.0	0.0	
	京都府	12	100.0	0.0	
	大阪府	31	87.1	12.9	
	兵庫県	18	94.4	5.6	
	奈良県	5	80.0	20.0	
	和歌山県	5	100.0	0.0	
	鳥取県	2	100.0	0.0	
	島根県	2	100.0	0.0	
	岡山県	6	83.3	16.7	
	広島県	10	100.0	0.0	
	山口県	5	100.0	0.0	
	徳島県	5	100.0	0.0	
	香川県	1	100.0	0.0	
	愛媛県	10	100.0	0.0	
	高知県	2	50.0	50.0	
	福岡県	22	86.4	13.6	
	佐賀県	4	75.0	25.0	
	長崎県	10	90.0	10.0	
	熊本県	6	83.3	16.7	
	大分県	2	50.0	50.0	
	宮崎県	3	100.0	0.0	
	鹿児島県	10	70.0	30.0	
	沖縄県	2	100.0	0.0	
海外	1	100.0	0.0		

SEX

性別

		横%		男性	女性
全体		412	90.3	9.7	
Q1 あなた ご自身を 含めた、 同居家族 の人数を	1人暮らし(同居の家族はいない)	60	83.3	16.7	
	2人	102	92.2	7.8	
	3人	111	88.3	11.7	
	4人	80	97.5	2.5	
	5人以上	59	88.1	11.9	
全体		352	91.5	8.5	
Q2 同居 のご家族 を教えてく ださい。 (いくつで も) ※ご自身 からみた 続柄でお 答えくださ	配偶者	332	93.1	6.9	
	お子さま(未就学児):【】名	69	81.2	18.8	
	お子さま(お子さまの配偶者を含む)(小学生～未成年):【】名	132	94.7	5.3	
	お子さま(お子さまの配偶者を含む)(成人):【】名	82	97.6	2.4	
	父親(配偶者の父親を含む)	18	72.2	27.8	
	母親(配偶者の母親を含む)	31	83.9	16.1	
	祖父母(配偶者の祖父母を含む)	1	100.0	0.0	
	孫	2	100.0	0.0	
兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	4	100.0	0.0		
その他	3	100.0	0.0		
全体		412	90.3	9.7	
Q4 あなた は現在医 師として 働いてい ますか？	働いている(常勤)	374	93.0	7.0	
	働いている(非常勤)	30	66.7	33.3	
	働いている(産休・育休中【子どもに関するもの等】)	4	25.0	75.0	
	働いている(介護休暇中等【自分・親・配偶者・祖父母に関するもの等】)	1	0.0	100.0	
	働いていない	3	100.0	0.0	
全体		409	90.2	9.8	
Q5 あなた が主に働 いている (いた)勤 務先の種 別を教え てくださ	医療機関	266	89.8	10.2	
	診療所	93	93.5	6.5	
	保健所	2	100.0	0.0	
	自治体	2	100.0	0.0	
	大学・研究機関	34	79.4	20.6	
	民間企業	9	100.0	0.0	
その他	3	100.0	0.0		
全体		412	90.3	9.7	
勤務年数	1年以上5年以下	14	71.4	28.6	
	6年以上10年以下	33	66.7	33.3	
	11年以上15年以下	46	71.7	28.3	
	16年以上20年以下	44	93.2	6.8	
	21年以上25年以下	64	98.4	1.6	
	26年以上30年以下	77	94.8	5.2	
	31年以上35年以下	81	97.5	2.5	
	36年以上40年以下	37	97.3	2.7	
	41年以上45年以下	10	100.0	0.0	
	46年以上50年以下	1	100.0	0.0	

SEX

性別

		横%		男性	女性
全体		409	90.2	9.8	
Q8 あなたの 主たる 診療科を 教えてください。 (いくつか でも)	内科	111	91.0	9.0	
	呼吸器内科	14	92.9	7.1	
	循環器内科	28	92.9	7.1	
	消化器内科(胃腸内科)	27	88.9	11.1	
	腎臓内科	6	83.3	16.7	
	神経内科	7	100.0	0.0	
	糖尿病内科(代謝内科)	11	100.0	0.0	
	血液内科	7	100.0	0.0	
	皮膚科	11	81.8	18.2	
	アレルギー科	5	100.0	0.0	
	リウマチ科	4	100.0	0.0	
	感染症内科	1	100.0	0.0	
	小児科	29	72.4	27.6	
	精神科	30	90.0	10.0	
	心療内科	4	100.0	0.0	
	外科	40	97.5	2.5	
	呼吸器外科	2	100.0	0.0	
	心臓血管外科	9	100.0	0.0	
	乳腺外科	4	100.0	0.0	
	気管食道外科	2	100.0	0.0	
	消化器外科(胃腸外科)	10	100.0	0.0	
	泌尿器科	8	100.0	0.0	
	肛門外科	2	100.0	0.0	
	脳神経外科	10	100.0	0.0	
	整形外科	37	100.0	0.0	
	形成外科	4	100.0	0.0	
	美容外科	1	100.0	0.0	
	眼科	1	100.0	0.0	
	耳鼻いんこう科	10	90.0	10.0	
	小児外科	4	100.0	0.0	
	産婦人科	16	87.5	12.5	
	産科	0	0.0	0.0	
	婦人科	2	100.0	0.0	
リハビリテーション科	12	91.7	8.3		
放射線科	14	92.9	7.1		
麻酔科	25	92.0	8.0		
病理診断科	3	66.7	33.3		
臨床検査科	0	0.0	0.0		
救急科	10	100.0	0.0		
臨床研修医	3	33.3	66.7		
全科	1	100.0	0.0		
その他	21	85.7	14.3		
不詳	3	100.0	0.0		
全体		412	90.3	9.7	
Q9 あなた は専門医	あり	303	92.7	7.3	
	なし	109	83.5	16.5	

SEX

性別

		横%		男性	女性
全体		303	92.7	7.3	
Q10 あなたがお持ちの専門医資格名を教えてください。(いくつかも)	社会医学系専門医	9	100.0	0.0	
	総合内科専門医	38	92.1	7.9	
	呼吸器専門医	8	87.5	12.5	
	循環器専門医	23	95.7	4.3	
	消化器病専門医	26	92.3	7.7	
	腎臓専門医	5	80.0	20.0	
	肝臓専門医	4	100.0	0.0	
	神経内科専門医	7	100.0	0.0	
	糖尿病専門医	6	100.0	0.0	
	内分泌代謝科専門医	5	100.0	0.0	
	血液専門医	4	100.0	0.0	
	皮膚科専門医	6	83.3	16.7	
	アレルギー専門医	2	100.0	0.0	
	リウマチ専門医	8	100.0	0.0	
	感染症専門医	1	100.0	0.0	
	小児科専門医	24	79.2	20.8	
	心療内科専門医	5	100.0	0.0	
	外科専門医	43	100.0	0.0	
	呼吸器外科専門医	2	100.0	0.0	
	心臓血管外科専門医	6	100.0	0.0	
	乳腺専門医	6	83.3	16.7	
	気管食道科専門医	0	0.0	0.0	
	消化器外科専門医	17	100.0	0.0	
	泌尿器科専門医	9	100.0	0.0	
	脳神経外科専門医	12	100.0	0.0	
	整形外科専門医	31	100.0	0.0	
	形成外科専門医	5	100.0	0.0	
	眼科専門医	0	0.0	0.0	
	耳鼻咽喉科専門医	11	90.9	9.1	
	小児外科専門医	1	100.0	0.0	
	産婦人科専門医	15	86.7	13.3	
	リハビリテーション科専門医	7	100.0	0.0	
	放射線科専門医	12	91.7	8.3	
	麻酔科専門医	22	95.5	4.5	
	病理専門医	3	66.7	33.3	
	救急科専門医	12	91.7	8.3	
	超音波専門医	1	100.0	0.0	
	細胞診専門医	3	100.0	0.0	
	透析専門医	6	83.3	16.7	
	老年病専門医	2	100.0	0.0	
消化器内視鏡専門医	23	87.0	13.0		
臨床遺伝専門医	1	100.0	0.0		
漢方専門医	3	100.0	0.0		
レーザー専門医	0	0.0	0.0		
気管支鏡専門医	1	100.0	0.0		
核医学専門医	2	100.0	0.0		
大腸肛門病専門医	2	100.0	0.0		
婦人科腫瘍専門医	2	100.0	0.0		
ペインクリニック専門医	4	100.0	0.0		
熱傷専門医	0	0.0	0.0		
脳血管内治療専門医	3	100.0	0.0		
がん薬物療法専門医	3	100.0	0.0		
周産期(新生児)専門医	1	100.0	0.0		
生殖医療専門医	0	0.0	0.0		
小児神経専門医	0	0.0	0.0		
一般病院連携精神医学専門医	13	92.3	7.7		

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
横%							
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
Q1 あなた ご自身を 含めた、 同居家族 の人数を	1人暮らし(同居の家族はいな	60	3.3	21.7	21.7	40.0	13.3
	2人	102	1.0	11.8	9.8	33.3	44.1
	3人	111	0.9	15.3	21.6	43.2	18.9
	4人	80	0.0	10.0	33.8	40.0	16.3
	5人以上	59	0.0	16.9	35.6	40.7	6.8
全体		352	0.6	13.4	23.3	39.2	23.6
Q2 同居 のご家族 を教えてく ださい。 (いくつで も) ※ご自身 からみた 続柄でお 答えくださ	配偶者	332	0.3	11.7	23.5	40.1	24.4
	お子さま(未就学児):【】名	69	1.4	37.7	44.9	14.5	1.4
	お子さま(お子さまの配偶者を	132	0.0	6.1	40.9	51.5	1.5
	お子さま(お子さまの配偶者を	82	0.0	1.2	6.1	54.9	37.8
	父親(配偶者の父親を含む)	18	0.0	33.3	22.2	38.9	5.6
	母親(配偶者の母親を含む)	31	3.2	22.6	9.7	32.3	32.3
	祖父母(配偶者の祖父母を含	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	孫	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹	4	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	
その他	3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
Q4 あなた は現在医 師として 働いてい ますか？	働いている(常勤)	374	1.1	13.4	21.9	40.1	23.5
	働いている(非常勤)	30	0.0	13.3	40.0	36.7	10.0
	働いている(産休・育休中【子	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	働いている(介護休暇中等【自	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	働いていない	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
全体		409	1.0	14.4	23.0	39.4	22.2
Q5 あなた が主に働 いている (いた)勤 務先の種 別を教え てくださ	医療機関	266	1.5	15.0	28.9	38.7	15.8
	診療所	93	0.0	2.2	8.6	46.2	43.0
	保健所	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	自治体	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学・研究機関	34	0.0	44.1	26.5	20.6	8.8
	民間企業	9	0.0	22.2	0.0	55.6	22.2
その他	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
勤務年数	1年以上5年以下	14	28.6	50.0	14.3	7.1	0.0
	6年以上10年以下	33	0.0	81.8	15.2	3.0	0.0
	11年以上15年以下	46	0.0	47.8	41.3	10.9	0.0
	16年以上20年以下	44	0.0	4.5	86.4	6.8	2.3
	21年以上25年以下	64	0.0	0.0	46.9	46.9	6.3
	26年以上30年以下	77	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1
	31年以上35年以下	81	0.0	0.0	0.0	61.7	38.3
	36年以上40年以下	37	0.0	0.0	0.0	2.7	97.3
	41年以上45年以下	10	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
46年以上50年以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
		横%					
全体		409	1.0	14.4	23.0	39.4	22.2
Q8 あなたの 診療科を 教えてください。(い くつでも)	内科	111	0.9	11.7	14.4	40.5	32.4
	呼吸器内科	14	0.0	21.4	21.4	42.9	14.3
	循環器内科	28	3.6	10.7	17.9	50.0	17.9
	消化器内科(胃腸内科)	27	3.7	18.5	11.1	48.1	18.5
	腎臓内科	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	神経内科	7	0.0	28.6	28.6	42.9	0.0
	糖尿病内科(代謝内科)	11	0.0	27.3	0.0	63.6	9.1
	血液内科	7	0.0	14.3	14.3	42.9	28.6
	皮膚科	11	0.0	27.3	9.1	45.5	18.2
	アレルギー科	5	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0
	リウマチ科	4	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	感染症内科	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	小児科	29	0.0	20.7	24.1	27.6	27.6
	精神科	30	0.0	10.0	43.3	40.0	6.7
	心療内科	4	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	外科	40	0.0	7.5	27.5	35.0	30.0
	呼吸器外科	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	心臓血管外科	9	0.0	11.1	22.2	44.4	22.2
	乳腺外科	4	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0
	気管食道外科	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	消化器外科(胃腸外科)	10	0.0	30.0	20.0	30.0	20.0
	泌尿器科	8	0.0	0.0	37.5	37.5	25.0
	肛門外科	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	脳神経外科	10	0.0	10.0	30.0	30.0	30.0
	整形外科	37	0.0	16.2	29.7	40.5	13.5
	形成外科	4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	美容外科	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	眼科	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	耳鼻いんこう科	10	0.0	20.0	30.0	30.0	20.0
	小児外科	4	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	産婦人科	16	0.0	12.5	18.8	43.8	25.0
	産科	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	婦人科	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
リハビリテーション科	12	0.0	16.7	0.0	41.7	41.7	
放射線科	14	0.0	14.3	14.3	64.3	7.1	
麻酔科	25	0.0	20.0	28.0	24.0	28.0	
病理診断科	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
臨床検査科	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
救急科	10	0.0	20.0	30.0	40.0	10.0	
臨床研修医	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	
全科	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
その他	21	0.0	9.5	14.3	33.3	42.9	
不詳	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
Q9 あなた は専門医	あり	303	0.3	14.5	25.7	40.9	18.5
	なし	109	2.8	14.7	15.6	34.9	32.1

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
横%							
	全体	303	0.3	14.5	25.7	40.9	18.5
Q10 あなたがお持ちの専門医資格名を教えてください。(いくつかでも)	社会医学系専門医	9	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1
	総合内科専門医	38	2.6	23.7	23.7	34.2	15.8
	呼吸器専門医	8	0.0	25.0	37.5	12.5	25.0
	循環器専門医	23	0.0	8.7	13.0	47.8	30.4
	消化器病専門医	26	0.0	15.4	15.4	50.0	19.2
	腎臓専門医	5	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	肝臓専門医	4	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	神経内科専門医	7	0.0	42.9	28.6	14.3	14.3
	糖尿病専門医	6	0.0	16.7	0.0	66.7	16.7
	内分泌代謝科専門医	5	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0
	血液専門医	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
	皮膚科専門医	6	0.0	33.3	16.7	16.7	33.3
	アレルギー専門医	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	リウマチ専門医	8	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0
	感染症専門医	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	小児科専門医	24	0.0	20.8	20.8	33.3	25.0
	心療内科専門医	5	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0
	外科専門医	43	0.0	11.6	34.9	37.2	16.3
	呼吸器外科専門医	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	心臓血管外科専門医	6	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0
	乳腺専門医	6	0.0	0.0	50.0	33.3	16.7
	気管食道科専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	消化器外科専門医	17	0.0	11.8	35.3	41.2	11.8
	泌尿器科専門医	9	0.0	0.0	33.3	44.4	22.2
	脳神経外科専門医	12	0.0	8.3	25.0	33.3	33.3
	整形外科専門医	31	0.0	12.9	32.3	41.9	12.9
	形成外科専門医	5	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	眼科専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	耳鼻咽喉科専門医	11	0.0	18.2	27.3	36.4	18.2
	小児外科専門医	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	産婦人科専門医	15	0.0	13.3	20.0	46.7	20.0
	リハビリテーション科専門医	7	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0
	放射線科専門医	12	0.0	8.3	16.7	66.7	8.3
	麻酔科専門医	22	0.0	18.2	27.3	27.3	27.3
	病理専門医	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	救急科専門医	12	0.0	8.3	41.7	16.7	33.3
	超音波専門医	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	細胞診専門医	3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
	透析専門医	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	老年病専門医	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	消化器内視鏡専門医	23	0.0	17.4	17.4	56.5	8.7
	臨床遺伝専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	漢方専門医	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
	レーザー専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	気管支鏡専門医	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
核医学専門医	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	
大腸肛門病専門医	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
婦人科腫瘍専門医	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	
ペインクリニック専門医	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	
熱傷専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
脳血管内治療専門医	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	
がん薬物療法専門医	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	
周産期(新生児)専門医	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
生殖医療専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
小児神経専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
一般病院連携精神医学専門	13	0.0	7.7	38.5	46.2	7.7	

SEX

性別

		横%		男性	女性
	全体	412	90.3	9.7	
Q11 ご自身の公衆衛生医師の勤務経験の有無につ	ある【】年間	21	85.7	14.3	
	ない	391	90.5	9.5	

NAGE

年代別

		横%	20代	30代	40代	50代	60代以上
	全体	412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
Q11 ご自身の公衆衛生医 師の勤務経験の有無につ	ある【】年間	21	0.0	9.5	33.3	28.6	28.6
	ない	391	1.0	14.8	22.5	39.9	21.7

SEX

性別

		横%		男性	女性
全体		412	90.3	9.7	
年取別	100万円未満	3	66.7	33.3	
	100万円～400万円未満	9	66.7	33.3	
	400万円～700万円未満	21	71.4	28.6	
	700万円～1000万円未満	31	71.0	29.0	
	1000万円～1300万円未満	46	87.0	13.0	
	1300万円以上	225	96.0	4.0	
	答えたくない・わからない・覚えていない	77	92.2	7.8	
Q13 ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師(常勤)の年間収入	300万円以上高いと思う。	30	80.0	20.0	
	200万円以上高いと思う。	3	100.0	0.0	
	100万円以上高いと思う。	7	57.1	42.9	
	同程度(±100万円未満)と思う。	137	91.2	8.8	
	100万円以上安いと思う。	26	73.1	26.9	
	200万円以上安いと思う。	31	87.1	12.9	
	300万円以上安いと思う。	178	95.5	4.5	
Q14 あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。	教育機関	13	84.6	15.4	
	大学病院(医局)	24	79.2	20.8	
	市中(民間)病院	197	89.3	10.7	
	開業	66	92.4	7.6	
	研究所	3	66.7	33.3	
	行政	7	100.0	0.0	
	民間企業	32	84.4	15.6	
	医師以外の職業	41	97.6	2.4	
Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。 ※現在公衆衛生医師として勤務している場合は今後の	公衆衛生医師に関心があり(将来)公衆衛生医師を希望している	16	93.8	6.3	
	公衆衛生医師に関心はないが(将来)公衆衛生医師を希望している	6	83.3	16.7	
	公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない	84	86.9	13.1	
	公衆衛生医師に関心もなくキャリアとしても希望していない	150	92.7	7.3	
	公衆衛生医師についてあまり知らない	123	88.6	11.4	
	公衆衛生医師について全く知らない・初めて聞いた	33	93.9	6.1	

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
横%							
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
年収別	100万円未満	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
	100万円～400万円未満	9	0.0	33.3	22.2	22.2	22.2
	400万円～700万円未満	21	14.3	23.8	14.3	23.8	23.8
	700万円～1000万円未満	31	0.0	22.6	19.4	32.3	25.8
	1000万円～1300万円未満	46	2.2	19.6	28.3	28.3	21.7
	1300万円以上	225	0.0	10.2	22.7	47.6	19.6
答えたくない・わからない・覚えていない		77	0.0	15.6	26.0	31.2	27.3
Q13 ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師(常勤)の年間収入について教えてください。	300万円以上高いと思う。	30	3.3	26.7	6.7	36.7	26.7
	200万円以上高いと思う。	3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3
	100万円以上高いと思う。	7	0.0	28.6	0.0	14.3	57.1
	同程度(±100万円未満)と思う。	137	1.5	19.0	20.4	36.5	22.6
	100万円以上安いと思う。	26	0.0	15.4	38.5	26.9	19.2
	200万円以上安いと思う。	31	0.0	9.7	35.5	41.9	12.9
Q14 あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。	300万円以上安いと思う。	178	0.0	9.6	24.7	44.4	21.3
	教育機関	13	0.0	15.4	7.7	38.5	38.5
	大学病院(医局)	24	0.0	25.0	29.2	41.7	4.2
	市中(民間)病院	197	2.0	17.3	27.4	39.6	13.7
	開業	66	0.0	10.6	25.8	36.4	27.3
	研究所	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。	行政	7	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6
	民間企業	32	0.0	9.4	12.5	46.9	31.3
	医師以外の職業	41	0.0	14.6	14.6	41.5	29.3
	その他	29	0.0	3.4	10.3	31.0	55.2
	公衆衛生医師に関心があり(将来)公衆衛生医師を希望している	16	0.0	6.3	31.3	50.0	12.5
	公衆衛生医師に関心はないが(将来)公衆衛生医師を希望している	6	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7
公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない	公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない	84	2.4	16.7	25.0	34.5	21.4
	公衆衛生医師に関心もなくキャリアとしても希望していない	150	0.0	12.7	18.7	40.7	28.0
	公衆衛生医師についてあまり知らない	123	1.6	16.3	29.3	37.4	15.4
	公衆衛生医師について全く知らない・初めて聞いた	33	0.0	9.1	12.1	51.5	27.3

年収別

		横%	100万円未満	100万円～400万円未満	400万円～700万円未満	700万円～1000万円未満	1000万円～1300万円未満	1300万円以上	答えたくない・わからない・覚えていない
全体		412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
Q1 あなたご自身を含めた、同居家族の人数をお教えてください	1人暮らし(同居の家族はいない)	60	1.7	3.3	8.3	10.0	10.0	50.0	16.7
	2人	102	0.0	1.0	6.9	10.8	9.8	52.0	19.6
	3人	111	0.0	1.8	4.5	3.6	17.1	54.1	18.9
	4人	80	2.5	2.5	1.3	8.8	7.5	57.5	20.0
	5人以上	59	0.0	3.4	5.1	5.1	8.5	61.0	16.9
全体		352	0.6	2.0	4.5	7.1	11.4	55.4	19.0
Q2 同居のご家族を教えてください。(いくつでも)※ご自身からみた続柄でお答えください。	配偶者	332	0.6	1.8	3.6	6.6	11.1	56.6	19.6
	お子さま(未就学児):【】名	69	1.4	4.3	7.2	5.8	14.5	50.7	15.9
	お子さま(お子さまの配偶者を含む)(小学生～未成年):【】名	132	0.0	0.8	3.0	4.5	8.3	68.9	14.4
	お子さま(お子さまの配偶者を含む)(成人):【】名	82	1.2	2.4	0.0	7.3	9.8	58.5	20.7
	父親(配偶者の父親を含む)	18	0.0	11.1	11.1	5.6	11.1	44.4	16.7
	母親(配偶者の母親を含む)	31	3.2	6.5	12.9	3.2	6.5	41.9	25.8
	祖父母(配偶者の祖父母を含む)	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	孫	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	
その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	
全体		412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
Q4 あなたは現在医師として働いていますか？	働いている(常勤)	374	0.5	1.3	4.8	6.4	11.8	56.4	18.7
	働いている(非常勤)	30	3.3	6.7	6.7	20.0	6.7	40.0	16.7
	働いている(産休・育休中【子どもに関するもの等】)	4	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	働いている(介護休暇中等【自分・親・配偶者・祖父母に関するもの等】)	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
働いていない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	
全体		409	0.7	2.2	5.1	7.6	11.2	54.8	18.3
Q5 あなたが主に働いている(いた)勤務先の種別を教えてください	医療機関	266	0.8	1.5	4.1	7.9	10.5	57.5	17.7
	診療所	93	1.1	5.4	7.5	8.6	9.7	47.3	20.4
	保健所	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	自治体	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	大学・研究機関	34	0.0	0.0	8.8	5.9	17.6	47.1	20.6
	民間企業	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	77.8	11.1
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	
全体		412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
勤務年数	1年以上5年以下	14	0.0	14.3	35.7	0.0	21.4	21.4	7.1
	6年以上10年以下	33	3.0	0.0	9.1	12.1	18.2	33.3	24.2
	11年以上15年以下	46	0.0	2.2	4.3	8.7	13.0	54.3	17.4
	16年以上20年以下	44	0.0	4.5	0.0	9.1	18.2	43.2	25.0
	21年以上25年以下	64	0.0	0.0	1.6	4.7	9.4	76.6	7.8
	26年以上30年以下	77	0.0	0.0	5.2	6.5	5.2	61.0	22.1
	31年以上35年以下	81	1.2	4.9	6.2	6.2	9.9	50.6	21.0
	36年以上40年以下	37	2.7	0.0	0.0	8.1	13.5	59.5	16.2
	41年以上45年以下	10	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	50.0	20.0
46年以上50年以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

	全体	409	0.7	2.2	5.1	7.6	11.2	54.8	18.3
Q8 あなたの 主たる 診療科を 教えてください。 (いくつか つでも)	内科	111	0.9	2.7	3.6	10.8	12.6	56.8	12.6
	呼吸器内科	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	85.7	7.1
	循環器内科	28	0.0	0.0	7.1	3.6	3.6	60.7	25.0
	消化器内科(胃腸内科)	27	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7	63.0	22.2
	腎臓内科	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	神経内科	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	71.4	14.3
	糖尿病内科(代謝内科)	11	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	63.6	18.2
	血液内科	7	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	42.9	0.0
	皮膚科	11	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	36.4	27.3
	アレルギー科	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	リウマチ科	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	感染症内科	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	小児科	29	3.4	3.4	6.9	13.8	13.8	37.9	20.7
	精神科	30	0.0	3.3	3.3	10.0	20.0	43.3	20.0
	心療内科	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	外科	40	0.0	0.0	5.0	5.0	7.5	60.0	22.5
	呼吸器外科	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	心臓血管外科	9	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	55.6	22.2
	乳腺外科	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	気管食道外科	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	消化器外科(胃腸外科)	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	10.0
	泌尿器科	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5
	肛門外科	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	脳神経外科	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	10.0
	整形外科	37	0.0	5.4	13.5	5.4	8.1	54.1	13.5
	形成外科	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	美容外科	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	眼科	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	耳鼻いんこう科	10	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0
	小児外科	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	産婦人科	16	0.0	0.0	0.0	12.5	18.8	56.3	12.5
	産科	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	婦人科	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	リハビリテーション科	12	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	75.0	16.7
放射線科	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	64.3	28.6	
麻酔科	25	0.0	4.0	0.0	12.0	8.0	64.0	12.0	
病理診断科	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	
臨床検査科	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
救急科	10	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0	20.0	
臨床研修医	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
全科	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
その他	21	4.8	0.0	9.5	9.5	23.8	42.9	9.5	
不詳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	全体	412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
Q9 あなた は専門医	あり	303	0.0	2.0	4.3	6.9	12.2	56.4	18.2
	なし	109	2.8	2.8	7.3	9.2	8.3	49.5	20.2

	全体	303	0.0	2.0	4.3	6.9	12.2	56.4	18.2
Q10 あなたがお持ちの専門医資格名を教えてください。(いくつかも)	社会医学系専門医	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	総合内科専門医	38	0.0	0.0	5.3	7.9	21.1	50.0	15.8
	呼吸器専門医	8	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	62.5	0.0
	循環器専門医	23	0.0	0.0	8.7	4.3	4.3	56.5	26.1
	消化器病専門医	26	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	61.5	30.8
	腎臓専門医	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	肝臓専門医	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
	神経内科専門医	7	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	57.1	14.3
	糖尿病専門医	6	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7
	内分泌代謝科専門医	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0
	血液専門医	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	皮膚科専門医	6	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7
	アレルギー専門医	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	リウマチ専門医	8	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	12.5
	感染症専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	小児科専門医	24	0.0	4.2	4.2	16.7	20.8	33.3	20.8
	心療内科専門医	5	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0
	外科専門医	43	0.0	0.0	4.7	7.0	9.3	58.1	20.9
	呼吸器外科専門医	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	心臓血管外科専門医	6	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	33.3
	乳腺専門医	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	気管食道科専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	消化器外科専門医	17	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	64.7	23.5
	泌尿器科専門医	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1
	脳神経外科専門医	12	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	83.3	8.3
	整形外科専門医	31	0.0	6.5	9.7	6.5	9.7	51.6	16.1
	形成外科専門医	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0
	眼科専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	耳鼻咽喉科専門医	11	0.0	0.0	27.3	0.0	18.2	36.4	18.2
	小児外科専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	産婦人科専門医	15	0.0	0.0	0.0	13.3	13.3	60.0	13.3
	リハビリテーション科専門医	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	71.4	14.3
	放射線科専門医	12	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	66.7	25.0
	麻酔科専門医	22	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	59.1	13.6
	病理専門医	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	救急科専門医	12	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	66.7	25.0
	超音波専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	細胞診専門医	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	透析専門医	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	老年病専門医	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	消化器内視鏡専門医	23	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	65.2	30.4
	臨床遺伝専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	漢方専門医	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	レーザー専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	気管支鏡専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	核医学専門医	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	大腸肛門病専門医	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
婦人科腫瘍専門医	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
ペインクリニック専門医	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	
熱傷専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
脳血管内治療専門医	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	
がん薬物療法専門医	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
周産期(新生児)専門医	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
生殖医療専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
小児神経専門医	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
一般病院連携精神医学専門医	13	0.0	7.7	0.0	7.7	30.8	30.8	23.1	

全体		412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
Q13 ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師(常勤)の年間収入の差に関する	300万円以上高いと思う。	30	3.3	20.0	20.0	6.7	10.0	33.3	6.7
	200万円以上高いと思う。	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
	100万円以上高いと思う。	7	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0	28.6	0.0
	同程度(±100万円未満)と思う。	137	0.0	1.5	5.1	13.1	16.8	36.5	27.0
	100万円以上安いと思う。	26	0.0	0.0	19.2	19.2	11.5	26.9	23.1
Q14 あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。	200万円以上安いと思う。	31	0.0	3.2	3.2	6.5	19.4	38.7	29.0
	300万円以上安いと思う。	178	0.6	0.0	0.0	0.0	6.2	80.9	12.4
	教育機関	13	0.0	0.0	15.4	0.0	15.4	61.5	7.7
Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。 ※現在公衆衛生医師として勤務している場合は今後の意向をお	大学病院(医局)	24	0.0	4.2	4.2	4.2	12.5	54.2	20.8
	市中(民間)病院	197	0.0	2.5	4.1	7.6	10.2	60.4	15.2
	開業	66	0.0	1.5	7.6	10.6	9.1	45.5	25.8
	研究所	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	行政	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1	28.6
	民間企業	32	0.0	0.0	6.3	3.1	15.6	43.8	31.3
	医師以外の職業	41	4.9	0.0	2.4	12.2	9.8	51.2	19.5
	その他	29	3.4	6.9	6.9	6.9	13.8	48.3	13.8
Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。 ※現在公衆衛生医師として勤務している場合は今後の意向をお	公衆衛生医師に関心があり(将来)公衆衛生医師を希望している	16	6.3	0.0	12.5	0.0	25.0	50.0	6.3
	公衆衛生医師に関心はないが(将来)公衆衛生医師を希望している	6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0
	公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない	84	0.0	1.2	4.8	8.3	14.3	54.8	16.7
	公衆衛生医師に関心もなくキャリアとしても希望していない	150	0.0	4.0	4.7	6.7	8.7	54.0	22.0
	公衆衛生医師についてあまり知らない	123	0.0	0.8	4.9	8.9	10.6	55.3	19.5
公衆衛生医師について全く知らない・初めて聞いた	33	3.0	3.0	6.1	6.1	12.1	54.5	15.2	

SEX

性別

		男性	女性
		横%	
	全体	412	90.3
Q16 医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人	[1]未経験:教育・研修や業務	109	90.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	154	88.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	149	91.9
Q16 疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関する	[1]未経験:教育・研修や業務	111	88.3
	[2]基本レベル:教育・研修や	166	91.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	135	90.4
Q16 心身機能・身体構造の医学的・社会的評価(疾患の程度、機能障害、活動	[1]未経験:教育・研修や業務	119	89.1
	[2]基本レベル:教育・研修や	185	91.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	108	89.8
Q16 法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	151	86.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	173	92.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	88	92.0
Q16 統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題	[1]未経験:教育・研修や業務	187	87.7
	[2]基本レベル:教育・研修や	161	91.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	64	93.8
Q16 特定集団の健康水準ならびに健康決定諸条件を把握するための指標につい	[1]未経験:教育・研修や業務	187	86.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	156	93.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	69	92.8
Q16 課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データ	[1]未経験:教育・研修や業務	190	87.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	157	92.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	65	93.8
Q16 特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	201	89.1
	[2]基本レベル:教育・研修や	150	91.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	61	91.8
Q16 新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に	[1]未経験:教育・研修や業務	227	87.7
	[2]基本レベル:教育・研修や	129	93.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	56	92.9
Q16 様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価するこ	[1]未経験:教育・研修や業務	182	87.9
	[2]基本レベル:教育・研修や	165	92.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	65	92.3
Q16 健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる。	[1]未経験:教育・研修や業務	206	88.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	159	91.2
	[3]自立レベル:教育・研修や	47	93.6
Q16 施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	191	89.5
	[2]基本レベル:教育・研修や	157	91.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	64	90.6
Q16 利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内	[1]未経験:教育・研修や業務	199	89.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	152	90.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	61	93.4
Q16 財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	246	88.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	120	91.7
	[3]自立レベル:教育・研修や	46	95.7
Q16 新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資	[1]未経験:教育・研修や業務	243	87.2
	[2]基本レベル:教育・研修や	123	95.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	46	93.5
Q16 経営計画の立案と評価を行い、対案の査定、事業の継続または中止の判	[1]未経験:教育・研修や業務	238	86.1
	[2]基本レベル:教育・研修や	126	96.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	48	93.8
Q16 不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処するこ	[1]未経験:教育・研修や業務	192	88.0
	[2]基本レベル:教育・研修や	162	93.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	58	87.9
Q16 口頭・文書により組織の内外と適切な潤滑な意識疎通をはかることができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	98	91.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	196	90.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	118	89.0
Q16 健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの	[1]未経験:教育・研修や業務	158	88.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	173	91.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	81	90.1
Q16 ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメ	[1]未経験:教育・研修や業務	170	89.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	179	91.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	63	88.9

SEX

性別

			男性	女性
			横%	
Q16 ソーシャルマーケティングとマスコミュニケーションの理論を理解した上での公表し、わかりやすく伝え、	【1】未経験:教育・研修や業務	224	90.2	9.8
	【2】基本レベル:教育・研修や	141	90.1	9.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	47	91.5	8.5
Q16 国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え、	【1】未経験:教育・研修や業務	205	90.2	9.8
	【2】基本レベル:教育・研修や	159	89.3	10.7
	【3】自立レベル:教育・研修や	48	93.8	6.3
Q16 複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むこと	【1】未経験:教育・研修や業務	155	88.4	11.6
	【2】基本レベル:教育・研修や	182	91.8	8.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	75	90.7	9.3
Q16 公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を	【1】未経験:教育・研修や業務	232	89.7	10.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	130	90.0	10.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	50	94.0	6.0
Q16 複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業	【1】未経験:教育・研修や業務	189	88.9	11.1
	【2】基本レベル:教育・研修や	155	92.3	7.7
	【3】自立レベル:教育・研修や	68	89.7	10.3
Q16 関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することがで	【1】未経験:教育・研修や業務	223	90.6	9.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	138	89.9	10.1
	【3】自立レベル:教育・研修や	51	90.2	9.8
Q16 他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業	【1】未経験:教育・研修や業務	229	89.5	10.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	91.5	8.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	54	90.7	9.3
Q16 幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力があ	【1】未経験:教育・研修や業務	230	89.1	10.9
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	93.0	7.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	53	88.7	11.3
Q16 人材育成についての知識、技術と態度を身につけている。	【1】未経験:教育・研修や業務	182	88.5	11.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	152	91.4	8.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	78	92.3	7.7
Q16 関係する組織の職員の指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的な	【1】未経験:教育・研修や業務	210	87.6	12.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	144	92.4	7.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	58	94.8	5.2
Q16 研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	153	87.6	12.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	175	91.4	8.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	84	92.9	7.1
Q16 様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる。	【1】未経験:教育・研修や業務	171	87.7	12.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	169	92.9	7.1
	【3】自立レベル:教育・研修や	72	90.3	9.7
Q16 公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している。	【1】未経験:教育・研修や業務	242	89.3	10.7
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	93.0	7.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	41	87.8	12.2
Q16 公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる。	【1】未経験:教育・研修や業務	268	89.2	10.8
	【2】基本レベル:教育・研修や	107	93.5	6.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	37	89.2	10.8
Q16 患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	242	88.8	11.2
	【2】基本レベル:教育・研修や	122	93.4	6.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	48	89.6	10.4
Q16 研究成果を論文として発表できる。	【1】未経験:教育・研修や業務	144	87.5	12.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	173	90.8	9.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	95	93.7	6.3
Q16 保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	254	89.4	10.6
	【2】基本レベル:教育・研修や	113	92.0	8.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	45	91.1	8.9
Q16 職業上の倫理規範を遵守している。	【1】未経験:教育・研修や業務	86	90.7	9.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	223	88.8	11.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	103	93.2	6.8
Q16 秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理	【1】未経験:教育・研修や業務	99	91.9	8.1
	【2】基本レベル:教育・研修や	210	88.6	11.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	103	92.2	7.8
Q16 常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受け	【1】未経験:教育・研修や業務	98	89.8	10.2
	【2】基本レベル:教育・研修や	220	90.5	9.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	94	90.4	9.6

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
横%							
全体		412	1.0	14.6	23.1	39.3	22.1
Q16 医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人	[1]未経験:教育・研修や業務	109	1.8	14.7	22.0	35.8	25.7
	[2]基本レベル:教育・研修や	154	1.3	17.5	24.7	37.7	18.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	149	0.0	11.4	22.1	43.6	22.8
Q16 疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関する	[1]未経験:教育・研修や業務	111	0.0	14.4	24.3	38.7	22.5
	[2]基本レベル:教育・研修や	166	1.8	18.1	19.9	39.2	21.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	135	0.7	10.4	25.9	40.0	23.0
Q16 心身機能・身体構造の医学的・社会的評価(疾患の程度、機能障害、活動	[1]未経験:教育・研修や業務	119	0.0	16.0	22.7	37.8	23.5
	[2]基本レベル:教育・研修や	185	2.2	14.6	21.6	40.0	21.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	108	0.0	13.0	25.9	39.8	21.3
Q16 法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	151	0.7	18.5	19.2	38.4	23.2
	[2]基本レベル:教育・研修や	173	1.7	14.5	23.7	37.0	23.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	88	0.0	8.0	28.4	45.5	18.2
Q16 統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題	[1]未経験:教育・研修や業務	187	1.1	14.4	19.8	39.6	25.1
	[2]基本レベル:教育・研修や	161	0.6	16.1	26.7	37.9	18.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	64	1.6	10.9	23.4	42.2	21.9
Q16 特定集団の健康水準ならびに健康決定諸条件を把握するための指標につい	[1]未経験:教育・研修や業務	187	1.1	13.9	21.4	39.0	24.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	156	1.3	16.0	24.4	38.5	19.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	69	0.0	13.0	24.6	42.0	20.3
Q16 課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データ	[1]未経験:教育・研修や業務	190	0.5	13.7	17.9	42.6	25.3
	[2]基本レベル:教育・研修や	157	1.3	15.9	28.0	36.3	18.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	65	1.5	13.8	26.2	36.9	21.5
Q16 特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	201	0.5	12.9	23.4	38.3	24.9
	[2]基本レベル:教育・研修や	150	2.0	15.3	20.7	43.3	18.7
	[3]自立レベル:教育・研修や	61	0.0	18.0	27.9	32.8	21.3
Q16 新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に	[1]未経験:教育・研修や業務	227	0.9	14.1	22.0	39.2	23.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	129	1.6	14.0	22.5	43.4	18.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	56	0.0	17.9	28.6	30.4	23.2
Q16 様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価するこ	[1]未経験:教育・研修や業務	182	0.0	14.8	20.9	39.0	25.3
	[2]基本レベル:教育・研修や	165	2.4	13.9	23.0	40.6	20.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	65	0.0	15.4	29.2	36.9	18.5
Q16 健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる。	[1]未経験:教育・研修や業務	206	0.0	15.5	20.9	40.8	22.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	159	2.5	11.3	24.5	40.9	20.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	47	0.0	21.3	27.7	27.7	23.4
Q16 施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	191	1.0	15.2	20.9	36.6	26.2
	[2]基本レベル:教育・研修や	157	1.3	13.4	24.8	42.7	17.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	64	0.0	15.6	25.0	39.1	20.3
Q16 利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内	[1]未経験:教育・研修や業務	199	0.0	14.1	20.6	39.7	25.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	152	2.0	15.1	26.3	37.5	19.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	61	1.6	14.8	23.0	42.6	18.0
Q16 財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	246	0.4	15.0	23.2	39.0	22.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	120	1.7	13.3	25.0	39.2	20.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	46	2.2	15.2	17.4	41.3	23.9
Q16 新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資	[1]未経験:教育・研修や業務	243	0.8	15.2	23.0	38.3	22.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	123	1.6	13.0	23.6	42.3	19.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	46	0.0	15.2	21.7	37.0	26.1
Q16 経営計画の立案と評価を行い、対案の査定、事業の継続または中止の外	[1]未経験:教育・研修や業務	238	0.8	16.0	25.2	36.6	21.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	126	0.8	13.5	19.8	44.4	21.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	48	2.1	10.4	20.8	39.6	27.1
Q16 不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処するこ	[1]未経験:教育・研修や業務	192	0.5	15.6	22.9	38.5	22.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	162	1.9	13.0	21.6	42.0	21.6
	[3]自立レベル:教育・研修や	58	0.0	15.5	27.6	34.5	22.4
Q16 口頭・文書により組織の内外と適切な潤滑な意識疎通をはかることができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	98	1.0	11.2	21.4	38.8	27.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	196	1.5	15.3	20.9	40.8	21.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	118	0.0	16.1	28.0	37.3	18.6
Q16 健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの	[1]未経験:教育・研修や業務	158	0.0	15.2	24.1	38.0	22.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	173	2.3	14.5	22.0	39.9	21.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	81	0.0	13.6	23.5	40.7	22.2
Q16 ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメ	[1]未経験:教育・研修や業務	170	0.0	14.7	24.1	36.5	24.7
	[2]基本レベル:教育・研修や	179	2.2	15.6	20.7	41.3	20.1
	[3]自立レベル:教育・研修や	63	0.0	11.1	27.0	41.3	20.6

年代別

		20代	30代	40代	50代	60代以上	
横%							
Q16 ソーシャルマーケティングとマスコミュニケーションの理論を理解した上での	[1]未経験:教育・研修や業務	224	0.4	14.3	23.2	40.2	21.9
	[2]基本レベル:教育・研修や	141	2.1	15.6	21.3	39.0	22.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	47	0.0	12.8	27.7	36.2	23.4
Q16 国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え	[1]未経験:教育・研修や業務	205	0.0	15.6	23.4	40.0	21.0
	[2]基本レベル:教育・研修や	159	1.9	15.1	20.8	40.3	22.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	48	2.1	8.3	29.2	33.3	27.1
Q16 複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むこと	[1]未経験:教育・研修や業務	155	0.0	15.5	21.9	40.0	22.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	182	2.2	14.8	20.3	40.1	22.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	75	0.0	12.0	32.0	36.0	20.0
Q16 公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を	[1]未経験:教育・研修や業務	232	0.0	15.9	22.4	38.8	22.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	130	3.1	11.5	22.3	41.5	21.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	50	0.0	16.0	28.0	36.0	20.0
Q16 複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業	[1]未経験:教育・研修や業務	189	0.5	13.8	22.8	40.2	22.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	155	1.9	14.2	21.3	41.3	21.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	68	0.0	17.6	27.9	32.4	22.1
Q16 関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することがで	[1]未経験:教育・研修や業務	223	0.4	14.8	22.4	40.8	21.5
	[2]基本レベル:教育・研修や	138	2.2	15.9	20.3	38.4	23.2
	[3]自立レベル:教育・研修や	51	0.0	9.8	33.3	35.3	21.6
Q16 他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業	[1]未経験:教育・研修や業務	229	0.4	14.4	23.6	40.6	21.0
	[2]基本レベル:教育・研修や	129	2.3	15.5	20.2	38.0	24.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	54	0.0	13.0	27.8	37.0	22.2
Q16 幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力があ	[1]未経験:教育・研修や業務	230	0.0	15.7	23.0	39.1	22.2
	[2]基本レベル:教育・研修や	129	3.1	13.2	20.2	41.1	22.5
	[3]自立レベル:教育・研修や	53	0.0	13.2	30.2	35.8	20.8
Q16 人材育成についての知識、技術と態度を身につけている。	[1]未経験:教育・研修や業務	182	0.5	13.7	22.0	44.0	19.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	152	1.3	17.8	21.7	35.5	23.7
	[3]自立レベル:教育・研修や	78	1.3	10.3	28.2	35.9	24.4
Q16 関係する組織の職員の指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的な	[1]未経験:教育・研修や業務	210	0.5	15.7	22.4	41.9	19.5
	[2]基本レベル:教育・研修や	144	2.1	14.6	22.2	36.8	24.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	58	0.0	10.3	27.6	36.2	25.9
Q16 研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	153	0.7	13.7	20.3	38.6	26.8
	[2]基本レベル:教育・研修や	175	1.7	14.3	22.9	42.3	18.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	84	0.0	16.7	28.6	34.5	20.2
Q16 様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる。	[1]未経験:教育・研修や業務	171	0.6	14.6	22.8	38.6	23.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	169	1.8	14.2	20.7	41.4	21.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	72	0.0	15.3	29.2	36.1	19.4
Q16 公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している。	[1]未経験:教育・研修や業務	242	0.4	13.2	23.1	38.8	24.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	129	2.3	17.1	18.6	42.6	19.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	41	0.0	14.6	36.6	31.7	17.1
Q16 公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる。	[1]未経験:教育・研修や業務	268	0.4	14.2	22.8	40.7	22.0
	[2]基本レベル:教育・研修や	107	1.9	15.0	20.6	39.3	23.4
	[3]自立レベル:教育・研修や	37	2.7	16.2	32.4	29.7	18.9
Q16 患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	242	0.4	15.3	23.6	40.1	20.7
	[2]基本レベル:教育・研修や	122	2.5	13.9	19.7	37.7	26.2
	[3]自立レベル:教育・研修や	48	0.0	12.5	29.2	39.6	18.8
Q16 研究成果を論文として発表できる。	[1]未経験:教育・研修や業務	144	1.4	13.9	22.9	38.2	23.6
	[2]基本レベル:教育・研修や	173	0.6	15.6	19.1	42.8	22.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	95	1.1	13.7	30.5	34.7	20.0
Q16 保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる。	[1]未経験:教育・研修や業務	254	0.8	14.2	23.2	39.8	22.0
	[2]基本レベル:教育・研修や	113	0.9	16.8	19.5	39.8	23.0
	[3]自立レベル:教育・研修や	45	2.2	11.1	31.1	35.6	20.0
Q16 職業上の倫理規範を遵守している。	[1]未経験:教育・研修や業務	86	0.0	15.1	20.9	40.7	23.3
	[2]基本レベル:教育・研修や	223	1.8	13.9	22.4	38.6	23.3
	[3]自立レベル:教育・研修や	103	0.0	15.5	26.2	39.8	18.4
Q16 秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理	[1]未経験:教育・研修や業務	99	1.0	12.1	24.2	39.4	23.2
	[2]基本レベル:教育・研修や	210	1.4	16.7	21.0	39.0	21.9
	[3]自立レベル:教育・研修や	103	0.0	12.6	26.2	39.8	21.4
Q16 常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受け	[1]未経験:教育・研修や業務	98	0.0	15.3	21.4	40.8	22.4
	[2]基本レベル:教育・研修や	220	1.4	14.1	21.4	41.4	21.8
	[3]自立レベル:教育・研修や	94	1.1	14.9	28.7	33.0	22.3

年取別

		100万円未満	100万円～400万円未満	400万円～700万円未満	700万円～1000万円未満	1000万円～1300万円未満	1300万円以上	答えたくない・わからない・覚えていない	
横%									
	全体	412	0.7	2.2	5.1	7.5	11.2	54.6	18.7
Q16	医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人	109	0.9	6.4	7.3	6.4	12.8	45.0	21.1
	【1】未経験:教育・研修や業務	154	0.6	1.3	6.5	7.8	9.7	56.5	17.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	149	0.7	0.0	2.0	8.1	11.4	59.7	18.1
	【3】自立レベル:教育・研修や	111	1.8	7.2	5.4	8.1	13.5	44.1	19.8
Q16	疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関する	166	0.6	0.6	7.2	9.0	7.8	56.6	18.1
	【1】未経験:教育・研修や業務	135	0.0	0.0	2.2	5.2	13.3	60.7	18.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	119	1.7	6.7	5.9	6.7	11.8	48.7	18.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	185	0.5	0.5	6.5	8.6	9.2	54.1	20.5
Q16	心身機能・身体構造の医学的・社会的評価(疾患の程度、機能障害、活動	108	0.0	0.0	1.9	6.5	13.9	62.0	15.7
	【1】未経験:教育・研修や業務	151	2.0	4.6	5.3	7.3	10.6	50.3	19.9
	【2】基本レベル:教育・研修や	173	0.0	1.2	6.9	8.7	9.2	53.2	20.8
	【3】自立レベル:教育・研修や	88	0.0	0.0	1.1	5.7	15.9	64.8	12.5
Q16	統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題	187	1.6	4.3	5.3	6.4	12.3	51.9	18.2
	【1】未経験:教育・研修や業務	161	0.0	0.6	6.2	9.3	6.2	56.5	21.1
	【2】基本レベル:教育・研修や	64	0.0	0.0	1.6	6.3	20.3	57.8	14.1
	【3】自立レベル:教育・研修や	187	1.6	4.3	4.8	7.5	12.8	51.3	17.6
Q16	特定集団の健康水準ならびに健康決定諸条件を把握するための指標につ	156	0.0	0.6	7.1	7.7	6.4	55.8	22.4
	【1】未経験:教育・研修や業務	69	0.0	0.0	1.4	7.2	17.4	60.9	13.0
	【2】基本レベル:教育・研修や	190	1.6	4.2	4.7	7.4	11.1	53.7	17.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	157	0.0	0.6	7.0	8.3	7.0	52.9	24.2
Q16	課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データ	65	0.0	0.0	1.5	6.2	21.5	61.5	9.2
	【1】未経験:教育・研修や業務	201	1.5	3.5	4.5	7.0	11.9	52.7	18.9
	【2】基本レベル:教育・研修や	150	0.0	1.3	7.3	9.3	8.7	53.3	20.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	61	0.0	0.0	1.6	4.9	14.8	63.9	14.8
Q16	新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に	227	1.3	3.1	4.8	7.0	11.9	53.3	18.5
	【1】未経験:教育・研修や業務	129	0.0	1.6	7.0	8.5	8.5	52.7	21.7
	【2】基本レベル:教育・研修や	56	0.0	0.0	1.8	7.1	14.3	64.3	12.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	182	1.6	3.8	3.8	7.7	11.5	51.1	20.3
Q16	様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価するこ	165	0.0	1.2	7.9	7.3	7.9	56.4	19.4
	【1】未経験:教育・研修や業務	65	0.0	0.0	1.5	7.7	18.5	60.0	12.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	206	1.5	3.9	3.9	7.3	10.7	53.9	18.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	159	0.0	0.6	7.5	8.2	11.3	53.5	18.9
Q16	健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる。	47	0.0	0.0	2.1	6.4	12.8	61.7	17.0
	【1】未経験:教育・研修や業務	191	1.6	3.7	4.7	7.9	12.0	47.1	23.0
	【2】基本レベル:教育・研修や	157	0.0	1.3	7.0	8.3	8.9	59.9	14.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	64	0.0	0.0	1.6	4.7	14.1	64.1	15.6
Q16	利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内	199	1.5	4.0	3.5	7.5	12.6	50.8	20.1
	【1】未経験:教育・研修や業務	152	0.0	0.7	8.6	7.9	7.9	57.2	17.8
	【2】基本レベル:教育・研修や	61	0.0	0.0	1.6	6.6	14.8	60.7	16.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	246	1.2	3.3	3.7	8.5	11.8	52.4	19.1
Q16	財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる。	120	0.0	0.8	9.2	5.0	7.5	57.5	20.0
	【1】未経験:教育・研修や業務	46	0.0	0.0	2.2	8.7	17.4	58.7	13.0
	【2】基本レベル:教育・研修や	243	1.2	3.3	4.9	7.4	12.3	51.9	18.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	123	0.0	0.8	6.5	7.3	8.1	58.5	18.7
Q16	新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資	46	0.0	2.2	8.7	13.0	58.7	17.4	
	【1】未経験:教育・研修や業務	238	1.3	2.9	5.0	8.0	11.8	52.5	18.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	126	0.0	1.6	6.3	7.1	8.7	58.7	17.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	48	0.0	0.0	2.1	6.3	14.6	54.2	22.9
Q16	経営計画の立案と評価を行い、対案の査定、事業の継続または中止の判	192	1.6	3.6	4.7	8.3	11.5	51.6	18.8
	【1】未経験:教育・研修や業務	162	0.0	1.2	6.8	6.8	9.9	56.8	18.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	58	0.0	0.0	1.7	6.9	13.8	58.6	19.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	98	2.0	2.0	5.1	7.1	14.3	46.9	22.4
Q16	不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処す	196	0.5	3.6	6.6	7.7	7.1	59.2	15.3
	【1】未経験:教育・研修や業務	118	0.0	0.0	2.5	7.6	15.3	53.4	21.2
	【2】基本レベル:教育・研修や	158	1.9	3.8	4.4	8.2	13.9	49.4	18.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	173	0.0	1.7	6.9	7.5	8.1	57.2	18.5
Q16	健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの	81	0.0	0.0	2.5	6.2	12.3	59.3	19.8
	【1】未経験:教育・研修や業務	170	1.8	3.5	3.5	5.9	11.2	54.7	19.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	179	0.0	1.7	7.3	9.5	10.1	52.5	19.0
	【3】自立レベル:教育・研修や	63	0.0	0.0	3.2	6.3	14.3	60.3	15.9
Q16	ヘルスマarketingとマスコミュニケーションの理論を理解した上での	224	1.3	3.1	3.1	8.0	11.6	53.6	19.2
	【1】未経験:教育・研修や業務	141	0.0	1.4	8.5	6.4	9.9	53.9	19.9
	【2】基本レベル:教育・研修や	47	0.0	0.0	4.3	8.5	12.8	61.7	12.8
	【3】自立レベル:教育・研修や	205	1.5	2.4	3.4	7.3	11.7	55.1	18.5
Q16	国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝	159	0.0	2.5	8.2	8.2	8.2	52.8	20.1
	【1】未経験:教育・研修や業務	48	0.0	0.0	2.1	6.3	18.8	58.3	14.6
	【2】基本レベル:教育・研修や	155	1.9	3.2	4.5	9.7	11.6	50.3	18.7
	【3】自立レベル:教育・研修や	182	0.0	2.2	6.6	6.0	11.0	57.1	17.0
Q16	複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むこと	75	0.0	0.0	2.7	6.7	10.7	57.3	22.7
	【1】未経験:教育・研修や業務	232	1.3	3.0	3.4	7.3	11.6	55.2	18.1
	【2】基本レベル:教育・研修や	130	0.0	1.5	8.5	7.7	9.2	52.3	20.8
	【3】自立レベル:教育・研修や	50	0.0	0.0	4.0	8.0	14.0	58.0	16.0

年収別

		横%							答えたくない・わからない・覚えていない
		100万円未満	100万円～400万円未満	400万円～700万円未満	700万円～1000万円未満	1000万円～1300万円未満	1300万円以上		
Q16 複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業	【1】未経験:教育・研修や業務	189	1.6	3.7	3.2	8.5	11.6	52.9	18.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	155	0.0	1.3	7.7	7.7	9.0	55.5	18.7
	【3】自立レベル:教育・研修や	68	0.0	0.0	4.4	4.4	14.7	57.4	19.1
Q16 関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することがで	【1】未経験:教育・研修や業務	223	1.3	2.7	3.1	8.1	10.8	55.6	18.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	138	0.0	2.2	9.4	7.2	10.9	52.9	17.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	51	0.0	0.0	2.0	5.9	13.7	54.9	23.5
Q16 他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業	【1】未経験:教育・研修や業務	229	1.3	2.6	3.1	7.9	12.2	54.6	18.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	0.0	2.3	10.1	7.0	8.5	51.9	20.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	54	0.0	0.0	1.9	7.4	13.0	61.1	16.7
Q16 幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力があ	【1】未経験:教育・研修や業務	230	1.3	3.5	3.9	8.3	10.4	54.3	18.3
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	0.0	0.8	7.8	6.2	11.6	52.7	20.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	53	0.0	0.0	3.8	7.5	13.2	60.4	15.1
Q16 人材育成についての知識、技術と態度を身につけている。	【1】未経験:教育・研修や業務	182	1.6	3.8	4.4	9.3	10.4	51.6	18.7
	【2】基本レベル:教育・研修や	152	0.0	1.3	7.2	6.6	8.6	57.2	19.1
	【3】自立レベル:教育・研修や	78	0.0	0.0	2.6	5.1	17.9	56.4	17.9
Q16 関係する組織の職員の指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的な	【1】未経験:教育・研修や業務	210	1.4	3.3	4.3	8.6	10.0	51.4	21.0
	【2】基本レベル:教育・研修や	144	0.0	0.7	6.9	6.3	12.5	56.9	16.7
	【3】自立レベル:教育・研修や	58	0.0	1.7	3.4	6.9	12.1	60.3	15.5
Q16 研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	153	2.0	5.2	6.5	6.5	10.5	45.8	23.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	175	0.0	0.6	4.6	9.1	9.7	61.1	14.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	84	0.0	0.0	3.6	6.0	15.5	57.1	17.9
Q16 様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる。	【1】未経験:教育・研修や業務	171	1.8	3.5	5.8	7.0	11.7	48.5	21.6
	【2】基本レベル:教育・研修や	169	0.0	1.8	4.7	7.7	9.5	58.0	18.3
	【3】自立レベル:教育・研修や	72	0.0	0.0	4.2	8.3	13.9	61.1	12.5
Q16 公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している。	【1】未経験:教育・研修や業務	242	1.2	2.5	4.5	7.0	11.2	55.0	18.6
	【2】基本レベル:教育・研修や	129	0.0	2.3	7.0	8.5	10.9	51.2	20.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	41	0.0	0.0	2.4	7.3	12.2	63.4	14.6
Q16 公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる。	【1】未経験:教育・研修や業務	268	1.1	3.0	4.1	7.1	12.3	53.4	19.0
	【2】基本レベル:教育・研修や	107	0.0	0.9	8.4	8.4	6.5	56.1	19.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	37	0.0	0.0	2.7	8.1	16.2	59.5	13.5
Q16 患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	242	1.2	2.9	4.5	7.0	12.4	51.7	20.2
	【2】基本レベル:教育・研修や	122	0.0	1.6	7.4	9.0	8.2	58.2	15.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	48	0.0	0.0	2.1	6.3	12.5	60.4	18.8
Q16 研究成果を論文として発表できる。	【1】未経験:教育・研修や業務	144	2.1	4.2	6.3	7.6	9.7	48.6	21.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	173	0.0	1.7	5.8	7.5	10.4	56.6	17.9
	【3】自立レベル:教育・研修や	95	0.0	0.0	2.1	7.4	14.7	60.0	15.8
Q16 保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる。	【1】未経験:教育・研修や業務	254	1.2	2.8	3.5	6.7	12.2	55.1	18.5
	【2】基本レベル:教育・研修や	113	0.0	1.8	9.7	9.7	6.2	53.1	19.5
	【3】自立レベル:教育・研修や	45	0.0	0.0	2.2	6.7	17.8	55.6	17.8
Q16 職業上の倫理規範を遵守している。	【1】未経験:教育・研修や業務	86	3.5	3.5	7.0	8.1	11.6	48.8	17.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	223	0.0	2.7	5.8	9.4	10.8	52.9	18.4
	【3】自立レベル:教育・研修や	103	0.0	0.0	1.9	2.9	11.7	63.1	20.4
Q16 秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理	【1】未経験:教育・研修や業務	99	3.0	3.0	7.1	6.1	14.1	44.4	22.2
	【2】基本レベル:教育・研修や	210	0.0	2.9	5.7	9.5	9.5	57.1	15.2
	【3】自立レベル:教育・研修や	103	0.0	0.0	1.9	4.9	11.7	59.2	22.3
Q16 常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受け	【1】未経験:教育・研修や業務	98	3.1	5.1	5.1	9.2	10.2	46.9	20.4
	【2】基本レベル:教育・研修や	220	0.0	1.8	6.4	8.6	11.4	53.2	18.6
	【3】自立レベル:教育・研修や	94	0.0	0.0	2.1	3.2	11.7	66.0	17.0

